



# Sitecore CMS 6.6

# レポート デザイナー クックブック

Sitecore レポートの使用方法についてのガイド

## 目次

第 1 章	イントロダクション .....	4
1.1	セキュリティ ロールと Sitecore Engagement Analytics .....	5
第 2 章	レポート デザイン ツール .....	6
2.1	Stimulsoft Web Reports Designer .....	7
2.2	Stimulsoft Windows Reports Designer .....	8
第 3 章	レポートの編集 .....	9
3.1	Engagement Analytics レポート .....	10
3.1.1	Sitecore レポート定義アイテム .....	10
3.1.2	Sitecore レポート クエリ アイテム .....	11
3.1.3	Stimulsoft .mrt ファイル .....	11
3.1.4	Stimulsoft Web Reports Designer でのレポートの表示 .....	12
3.1.5	Stimulsoft Windows Reports Designer でのレポートの表示 .....	13
3.2	テキストのフォーマット .....	14
3.2.1	リボンを使用したテキストのフォーマット .....	14
3.2.2	プロパティを使用したテキストのフォーマット .....	15
3.2.3	スタイル .....	16
3.2.4	スタイルの適用 .....	18
3.3	レポートへのチャートの追加 .....	19
3.3.1	棒グラフの作成 .....	20
3.3.2	チャートのフォーマット .....	21
	チャートのサイズの変更 .....	22
	チャートの色の変更 .....	22
	チャート ラベルの追加 .....	24
3.3.3	円グラフの作成 .....	28
3.4	レポートへのイメージの追加 .....	33
3.4.1	メディア ライブラリ内のイメージへのリンク .....	33
3.4.2	外部サーバー上のイメージへのリンク .....	36
3.4.3	イメージのアップロード .....	36
3.5	レポートへのリンクの追加 .....	38
3.5.1	Web サイトにリンクする方法 .....	38
3.5.2	別のレポートへのリンクを作成する方法 .....	40
第 4 章	アナリティクス データベース .....	42
4.1	アナリティクス データベースについて .....	43
4.1.1	主なテーブルのグループ分け .....	43
4.1.2	Visits および Visitors テーブル .....	43
4.1.3	SQL クエリ .....	44
4.2	アナリティクス データベース テーブル .....	46

4.2.1	訪問者情報 .....	47
4.2.2	プロフィール .....	50
4.2.3	多変量テスト .....	51
4.2.4	キャンペーン .....	53
4.2.5	ページ イベント .....	54
4.2.6	システム情報 .....	55
4.2.7	マーケティング自動化 .....	55
4.3	SQL ビュー .....	57
第 5 章	レポートの作成と変更 .....	61
5.1	イントロダクション .....	62
5.2	レポートの作成 .....	63
5.2.1	既存の Stimulsoft レポート ファイルの複製 .....	63
5.2.2	レポート定義アイテムの複製 .....	63
5.2.3	SQL クエリ アイテムの複製 .....	64
5.2.4	複製したレポートを開く .....	66
5.2.5	接続文字列の追加 .....	67
5.2.6	データ ソースの追加 .....	68
	Windows Designer での SQL クエリの表示 .....	69
	Web Designer での SQL クエリの表示 .....	71
5.2.7	SQL クエリの作成 .....	71
	Web Reports Designer での SQL クエリのテスト .....	71
5.2.8	Sitecore アイテムへの SQL クエリの移動 .....	72
5.2.9	レポート定義アイテムの設定 .....	73
5.2.10	レポートレイアウトの作成 .....	75
	レポートレイアウトへのデータの追加 .....	75
	列見出しのフォーマット設定 .....	77
	レポート データのグループ化 .....	77
	下位見出しのグループ化 .....	78
	レポート ヘッダーの追加 .....	79
5.3	レポート テキストのローカライズ .....	82
5.4	レポート SQL クエリの変更 .....	87

# 第 1 章

## イントロダクション

このクックブックにある手順の説明は、Sitecore レポートを処理する .NET デベロッパーを対象としています。あらゆるユーザーを対象としています。Sitecore レポートの作成や編集を行うには、SQL に関する十分な知識があり、Sitecore のローカルの開発インスタンスにアクセスできる必要があります。

Sitecore Engagement Analytics には、最近のアクセス状況、見込み顧客の情報、サイトの稼働状況、訪問者の検索、ページの目標とイベント、最も検索された外部キーワード、最も多いアクセス元などの、有効な定義済みレポートが含まれています。これらのレポートは、Engagement Analytics または個々のコンテンツ アイテムで表示したり、Sitecore や Stimulsoft Report Designer を使用してカスタマイズしたりできます。

このクックブックで使用している例は、Sitecore Engagement Analytics と SQL Server データベースを使用する Sitecore CMS 上で稼働している NICAM デモ サイトや Office Core のものです。これらのサイトはいずれも、多くのデモ データを使用しており、さまざまなレポートのシナリオを、実稼働環境で展開せずに簡単にテストできます。

**メモ** - このガイドにある手順には、SQL Server 構文に基づく SQL クエリが含まれており、Oracle などの他のデータベース管理システムでは使用できない場合があります。

- **第 1 章—イントロダクション**

この章では、このクックブックの内容、目的、および対象読者について説明します。

- **第 2 章— レポート デザイン ツール**

この章では、レポートの作成と編集に必要なツールの概要について説明します。

- **第 3 章— レポートの編集**

この章では、フォント スタイルの変更からチャート、イメージ、ハイパーリンクのレポートへの追加までの基本操作について説明します。

- **第 4 章— アナリティクス データベース**

この章では、アナリティクス データベースの概要を述べ、レポートの設計時に便利なテーブルのグループ分けの要点について説明します。

- **第 5 章— レポートの作成と変更**

この章では、Web Reports Designer を使用したレポートの作成方法と、レポートの簡単な変更方法について説明します。

## 1.1 セキュリティ ロールと Sitecore Engagement Analytics

Sitecore Engagement Analytics の機能にアクセスするには、特定の Sitecore セキュリティ ロールのメンバーである必要があります。

Sitecore Engagement Analytics には、以下の重要なセキュリティ ロールがあります。

セキュリティ ロール	権限
Client Authoring	マーケティング センターへのアクセス。
Analytics Reporting	エンゲージメント計画モニターとエグゼクティブ ダッシュボードへのアクセス。 ClientAuthoring ロールのメンバーである必要があります。
Analytics Maintaining	エンゲージメント計画デザイナーとスーパーバイザーへのアクセス。 ClientAuthoring ロールのメンバーである必要があります。
Analytics Testing	マーケティング センターのテスト ラボへのアクセスと、ページ エディターおよびコンテンツ エディターのテスト機能へのアクセス。 ClientAuthoring ロールのメンバーである必要があります。 このロールのメンバーは、テスト バリエーションの作成および編集が可能です。 このロールのメンバーではないユーザーは、テスト バリエーションの切り替えが可能です。 Minimal Page Editor ロールのメンバーは、テストのバリエーションを切り替えることはできません。
Analytics Personalization	ページ エディターおよびコンテンツ エディターのパーソナライゼーション機能へのアクセス。 ClientAuthoring ロールのメンバーである必要があります。 このロールのメンバーは、パーソナライゼーション ルールの作成および編集が可能です。 このロールのメンバーではないユーザーは、パーソナライゼーション バリエーションの切り替えが可能です。 Minimal Page Editor ロールのメンバーは、パーソナライゼーションのバリエーションを切り替えることはできません。
Analytics Content Profiling	ページ エディターおよびコンテンツ エディターのコンテンツ プロファイリング機能へのアクセス。 ClientAuthoring ロールのメンバーである必要があります。

アナリティクス ロールはすべて、Client Users セキュリティ ロールのメンバーです。

### メモ

これらのロールでは、レポート定義アイテムを編集することはできません。レポート定義アイテムを編集するには、管理者であるか、または Sitecore Client Developing ロールのメンバーである必要があります。このロールでは、レポート定義アイテムの名前の変更、移動、コピー、並べ替えを行える権限が付与されます。

## 第 2 章

# レポート デザイン ツール

この章では、Engagement Analytics でのレポートの作成および編集に使用できる 2 つの Stimulsoft クライアント オプションの概要について説明します。

- Stimulsoft Web Reports Designer
- Stimulsoft Windows Reports Designer

## 2.1 Stimulsoft Web Reports Designer

正式名: Stimulsoft Reports.Web

Web Reports Designer は、Sitecore Engagement Analytics で使用できる標準レポート デザイナーです。Engagement Analytics で Web Reports Designer クライアントにアクセスするには、任意のレポートの上部にある [デザイン] ボタンをクリックします。



Web Reports Designer では、既存のレポートのフォーマットを編集したり、作成したコピーを編集してレポートを新規作成したりできます。また、Web Reports Designer を使用して、イメージ、ハイパーリンク、およびチャートをレポートに追加することもできます。

Web Reports Designer には、いくつかの制限があります。たとえば、キーボード ショートカットは使用できず、このツールで SQL クエリを簡単に作成することもできません。より高度なレポート編集機能が必要な場合は、Windows Reports Designer を使用してください。

## 2.2 Stimulsoft Windows Reports Designer

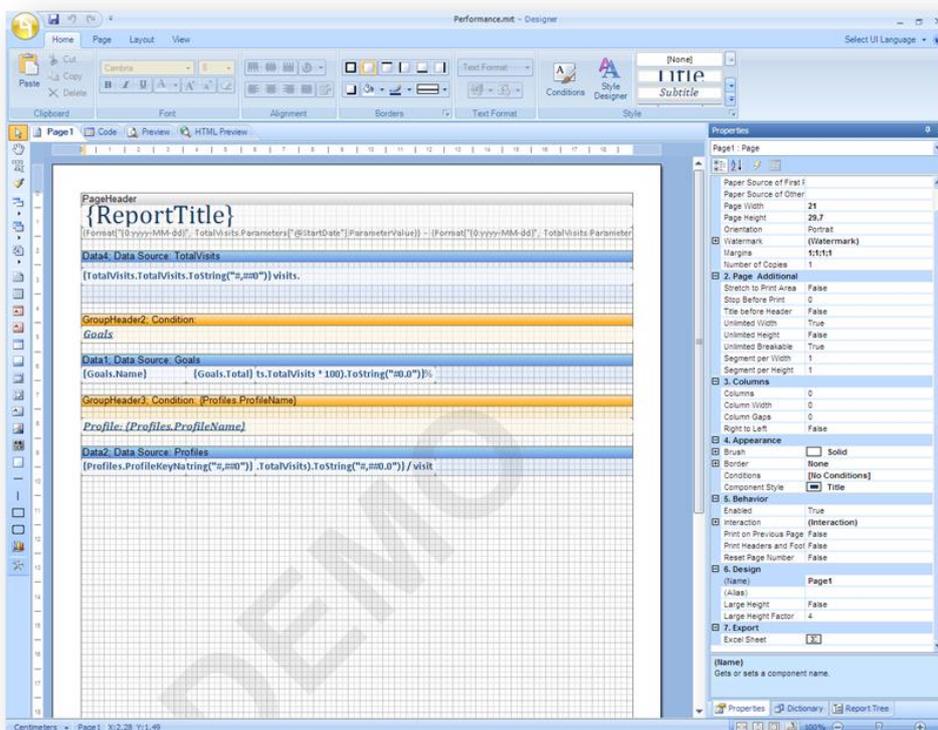
正式名: Stimulsoft Reports.Net

Stimulsoft Windows Reports Designer は、無料試用版を Stimulsoft Web サイトからダウンロードして使用できます。機能が豊富で強力なレポート デザイン ツールで、デベロッパーやレポート アナリストが使用するのに適しています。このツールでレポート デザイン プロセスを、より正確に制御できます。最終的には、Web Reports Designer を使用しても同じ結果を得られますが、Web サイトに関する多くのレポートを開発する場合は、このツールの購入、または試用版のダウンロードをお勧めします。

### Windows Reports Designer を使用するメリット:

- 新規レポートをゼロから作成できる
- ウィザードを使用すればやく新規レポートを作成できる
- レポートをすばやくロードできる (クライアントはブラウザのウィンドウでは実行されません)
- キーボード ショートカット (Ctrl + Z を含む) を使用できる
- 機能をプレビューできる
- フォーマット スタイルをインポートおよびエクスポートできる

Windows Reports Designer クライアントのユーザー インターフェース:



### メモ

Windows Designer (Stimulsoft Reports.Net) の無料試用版には、Sitecore のバージョンと同じ機能がすべて含まれていない場合があります。たとえば、最新バージョンには、プロパティが追加されている場合があります。しかし、機能がない場合でも、レポートの実行に影響はありません。

## 第 3 章

### レポートの編集

この章では、テキストの編集、既存のレポートへのチャートとイメージの追加など、基本的なレポートデザイナーの概念を紹介します。

- Engagement Analytics レポート
- テキストのフォーマット
- レポートへのチャートの追加
- レポートへのイメージの追加
- レポートへのリンクの追加

## 3.1 Engagement Analytics レポート

Sitecore Engagement Analytics では、次の 3 つのコンポーネントでレポートが構成されます。

- Sitecore レポート定義アイテム
- Sitecore レポート クエリ アイテム
- Stimulsoft .mrt レポート ファイル

### 3.1.1 Sitecore レポート定義アイテム

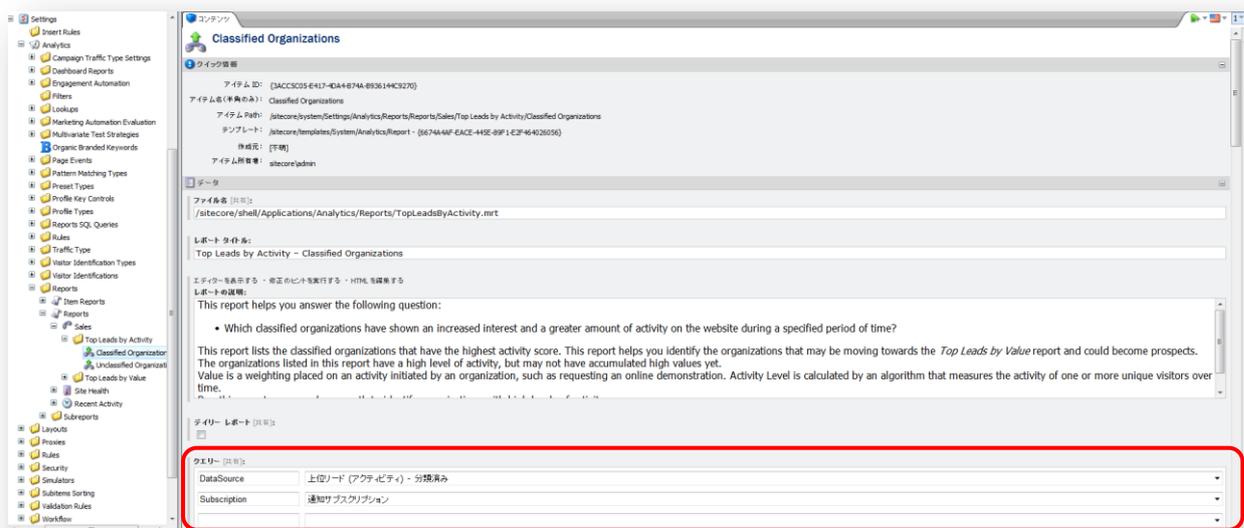
Sitecore レポート定義アイテムは、Sitecore コンテンツ ツリーにストアされている他のコンテンツ アイテムと同様です。レポート定義アイテムにアクセスするには、コンテンツ エディターを開いて、次の場所に移動します。

/sitecore/system/Settings/Analytics/Reports/Reports

各レポート アイテムには、次のフィールドが含まれます。

フィールド	説明
File Name	レポート Stimulsoft .mrt ファイルへのパス。このフィールドは、Sitecore 定義アイテムを Stimulsoft .mrt ファイルにリンクします。
Report Title	レポートに表示するタイトルを入力します。
Report Description	レポートに表示する説明を入力します。
Daily Report	レポートをフィルターして、毎日のデータを表示するためのチェック ボックス。
Queries	すべてのレポートは、1 つまたは複数の SQL クエリにバインドされています。最初のフィールドに「DataSource」と入力します。 2 番目のフィールドのドロップダウン リストで、SQL クエリまたは Oracle クエリを選択します。

Queries フィールドを表示した Classified Organizations レポート定義アイテム:



The screenshot shows the Sitecore Content Editor interface. The left sidebar contains a navigation tree with 'Reports' expanded. The main content area displays the configuration for a report titled 'Classified Organizations'. The 'Queries' field is highlighted with a red box, showing a dropdown menu with 'DataSource' and 'Subscription' options. The report description states: 'This report helps you answer the following question: Which classified organizations have shown an increased interest and a greater amount of activity on the website during a specified period of time? This report lists the classified organizations that have the highest activity score. This report helps you identify the organizations that may be moving towards the Top Leads by Value report and could become prospects. The organizations listed in this report have a high level of activity, but may not have accumulated high values yet. Value is a weighting placed on an activity initiated by an organization, such as requesting an online demonstration. Activity Level is calculated by an algorithm that measures the activity of one or more unique visitors over time.'

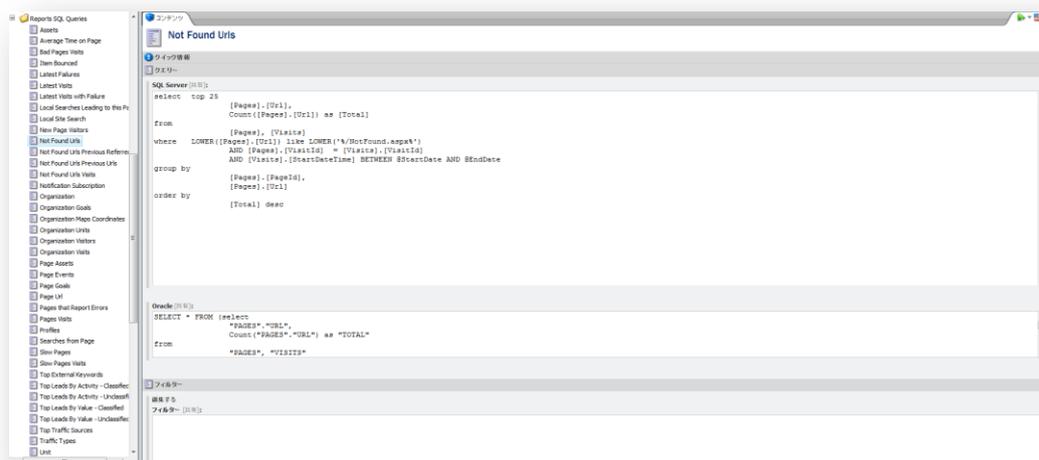
### 3.1.2 Sitecore レポート クエリ アイテム

Sitecore レポート クエリ アイテムには、レポート定義アイテムが使用する SQL クエリが含まれます。すべてのレポート クエリ アイテムは、以下の Sitecore コンテンツ ツリーにストアされています。

/sitecore/system/Settings/Analytics/Reports SQL Queries

各レポート クエリ アイテムでは、Queries グループの下に次のフィールドが含まれます。

- SQL Server
- Oracle



SQL Server Management Studio などのツールで SQL クエリを作成して、それを SQL Server フィールドに貼り付けます。Stimulsoft Web Reports Designer を使用してレポートを作成し、クエリをテストしてからコンテンツ ツリーに追加します。

### 3.1.3 Stimulsoft .mrt ファイル

レポートを保存すると、レポートのすべての設定データが、.mrt 拡張子を持つ XML ファイルに保存されます。このファイルのこれらのデータには、以下が含まれます。

- 接続文字列
- レアウトおよびプレゼンテーション
- テキスト フォーマット

report.mrt ファイルは Stimulsoft ファイル タイプであり、Web サイトのファイル システムで次の場所にストアされます。

wwwroot¥<sitename>¥WebSite¥sitecore¥shell¥Applications¥Analytics¥Reports¥

Web Reports Designer または Windows Reports Designer でレポートを編集すると、変更は .mrt ファイルに直接保存されます。同じレポート .mrt ファイルに基づいて複数のレポートを作成でき、既存のレポートを簡単に上書きできます。

#### メモ

複数の新規レポートを作成する場合は、標準 Sitecore レポートとの混同を防ぐために、新しいフォルダーを作成して保存してください。

### 3.1.4 Stimulsoft Web Reports Designer でのレポートの表示

組み込みの Stimulsoft Web Reports Designer を使用して、Engagement Analytics でレポートを開いて編集できます。このツールを使用して、新規レポートを複製または作成できます。新規レポートを編集または作成するには、Sitecore コンテンツ ツリーとファイル システムにアクセスできる適切な権限が必要です。

#### メモ

複数のレポートが同じ .mrt レポート ファイルを共有している場合があるため、1 つのレポート ファイルへの変更が複数のレポートに影響することがあります。複製したレポートを異なる名前で作成すると、この問題を回避できます。

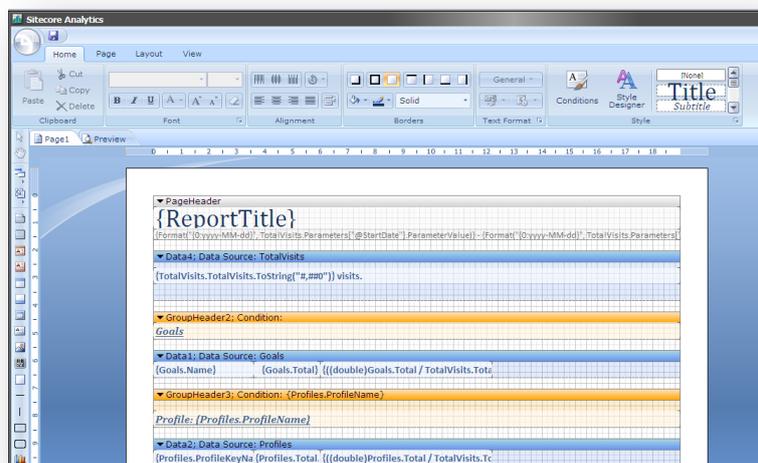
レポートの作成と複製の詳細な手順については、第 6 章「レポートの作成と変更」を参照してください。

Stimulsoft Web Reports Designer クライアントでレポートを開く方法:

1. Engagement Analytics で、編集するレポートを選択します。
2. レポートの上部の **[デザイン]** をクリックします。



Stimulsoft Web Reports Designer でレポートが表示されます。

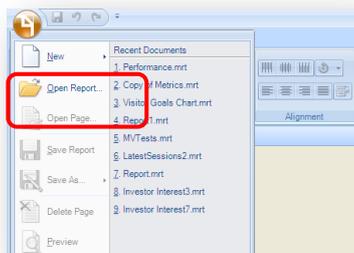


### 3.1.5 Stimulsoft Windows Reports Designer でのレポートの表示

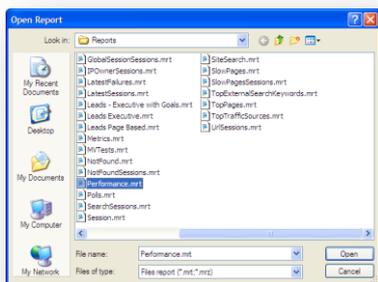
Windows Reports Designer を使用すると、.mrt レポート ファイルから直接レポートを開いて編集したり、新規レポートをゼロから作成したりできます。

Windows Reports Designer クライアントでレポートを開く方法:

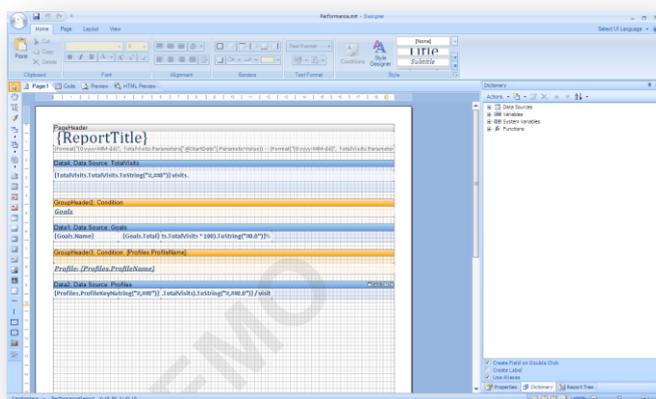
1. コンピューターで [スタート] メニューをクリックして、[すべてのプログラム] の [Stimulsoft] グループから [Windows Reports Designer] を開きます。
2. Stimulsoft メニューをクリックして、[レポートを開く] をクリックし、編集する . mrt ファイルを見つけます。



3. 開くレポート .mrt ファイルを選択します。



4. Windows Reports Designer にレポートが表示されます。



すべてのレポート .mrt ファイルは、次の場所にストアされます。

wwwroot¥<Web site name>¥WebSite¥sitecore¥shell¥Applications¥Analytics¥Reports

## 3.2 テキストのフォーマット

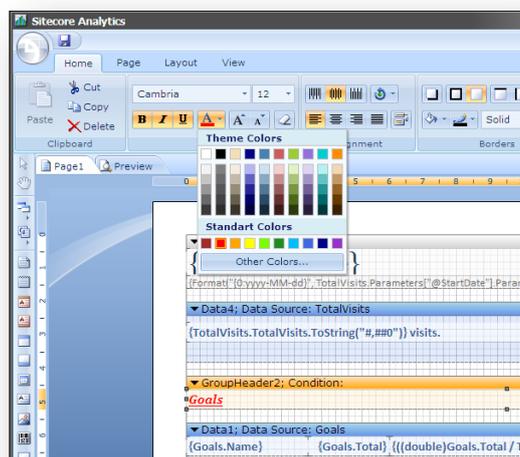
このセクションでは、既存の Engagement Analytics レポートでテキストをフォーマットする方法について説明します。Web Reports Designer を使用して、以下のものを簡単に変更できます。

- テキストの色
- フォント スタイル
- フォント サイズ
- 太字
- 下線
- 斜体

### 3.2.1 リボンを使用したテキストのフォーマット

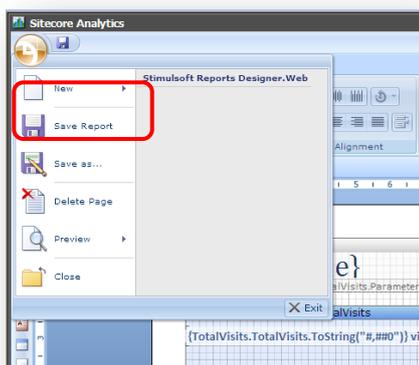
Web Reports Designer で Engagement Analytics レポートを開きます。最初にレポートを複製して、その後に以下のように変更してください。

1. レポートのレイアウトでテキスト ボックスをクリックして、[フォント] グループで [テキストの色] をクリックします。



2. 赤など、異なるテキストの色を選択します。

3. Stimulsoft メニューで、[レポートを保存] をクリックして変更を保存します。

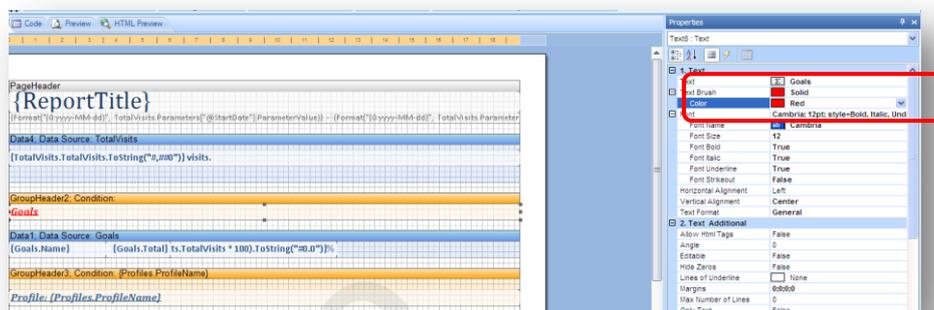


4. [完了] をクリックして Web Reports Designer を閉じます。
  5. Engagement Analytics でレポートをプレビューします。
- Microsoft Word リボンとまったく同じ方法で Stimulsoft リボンを使用して、テキストのサイズを変更し、太字、下線、斜体などの他のスタイルを適用することができます。

### 3.2.2 プロパティを使用したテキストのフォーマット

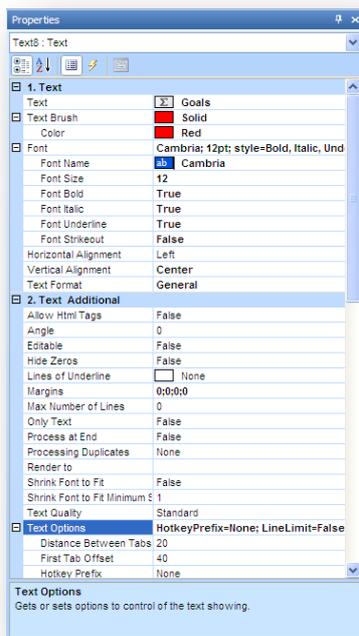
[プロパティ] パネルを使用してテキストをフォーマットする方法:

1. レポートのレイアウトでテキスト ボックスをクリックして、[プロパティ] パネルにある Text Brush の Color で Red を選択します。



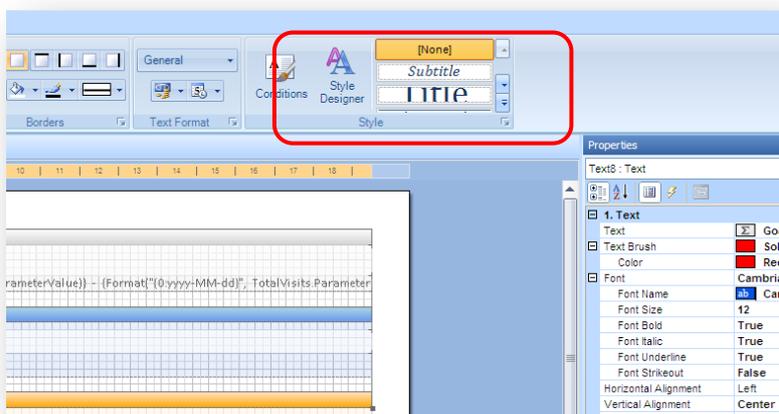
2. 変更を保存するには、[レポートを保存] をクリックします。
3. [完了] をクリックして Web Reports Designer を閉じます。
4. Engagement Analytics で変更をプレビューします。

[プロパティ] パネルを使用すると、リボンよりも詳細にテキストをフォーマットできます。たとえば、[Text Brush] の [Color] プロパティには直接、16 進数値を入力できます。追加のプロパティを設定して、より高度な変更を加えることもできます。たとえば、[Allow Html Tags] プロパティを True に設定して、HTML タグの使用を許可できます。

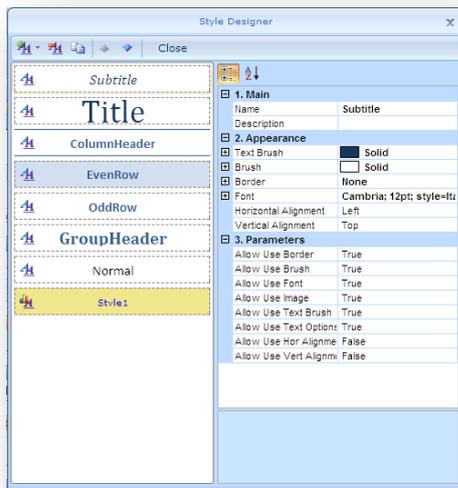


### 3.2.3 スタイル

スタイルを使用して、テキスト、見出し、およびチャートのフォーマットを制御することもできます。Stimulsoft リボンの [スタイル] グループで、すべてのスタイル オプションにアクセスできます。

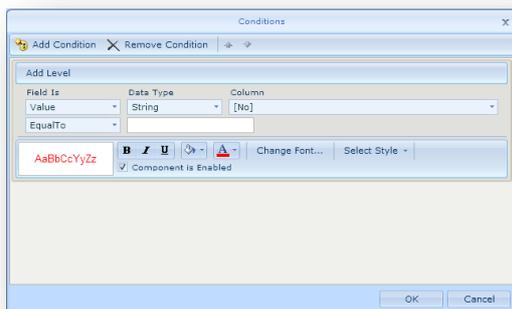


すべてのスタイルを表示したり、新しいスタイルを追加したりするには、[スタイル デザイナー] ウィンドウを開きます。



スタイル デザイナーに含まれるスタイルはすべて、.sts ファイルにストアされています。保存するスタイルをエクスポートしたり、保存した .sts ファイルから新しいスタイルをインポートしたりできます。

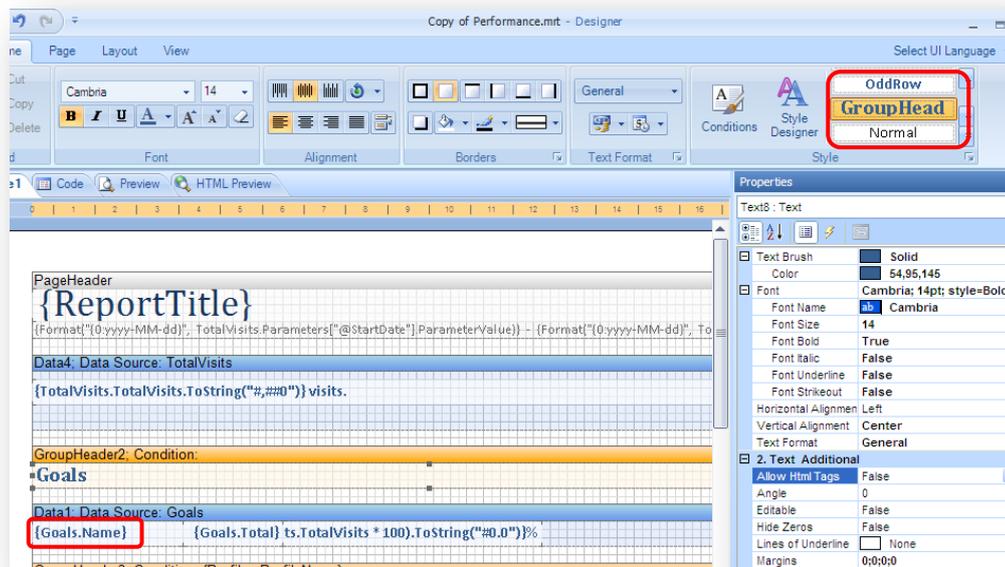
[条件] ウィンドウでは、値や式に基づく条件付書式の条件を作成できます。



### 3.2.4 スタイルの適用

異なるスタイルをレポートに適用する方法:

1. 編集するレポートでテキスト ボックスをクリックします。
2. テキストを選択して、[スタイル] パネルの右側に表示されたスタイルのいずれかをクリックします。たとえば、GroupHead というスタイルをクリックします。



3. 変更を保存して、Engagement Analytics でレポートをプレビューします。

### 3.3 レポートへのチャートの追加

データの概要がわかりやすく表示されるため、チャートやグラフを使用すると、レポートの意味が一目で理解できるようになります。これは、市場の傾向や見込み顧客をすばやく把握する必要のあるマーケティングや営業担当の管理職には特に便利です。

Web Reports Designer を使用して、チャートやグラフを簡単にレポートに追加できます。

次の例で、既存の Sitecore レポートに棒グラフを追加する方法を説明します。

まず、Page - Goals and Events などのレポートを開きます。このレポートを開くには、コンテンツ アイテムを選択してから、[Sitecore] リボンで [解析] タブを選択し、[拳動] グループで [レポート] をクリックします。

既存のレポートを使用すると、レポートに含まれるデータを再利用できるため簡単です。既存のレポートに変更を加える前に、最初に Sitecore レポート定義アイテム、Sitecore SQL クエリ アイテム、レポート .mrt ファイルを複製しておきます。この操作を行うには、Sitecore コンテンツ ツリーとファイル システムにアクセスできる適切な権限が必要です。

#### メモ

一部のレポート ファイル (TopLeadsByValue.mrt など) には、複数のレポートで使用されているものがあります。この場合、1つのレポート ファイルを変更すると複数のレポートに影響することがあります。複製したレポートを異なる名前 で保存すると、この問題を回避できます。

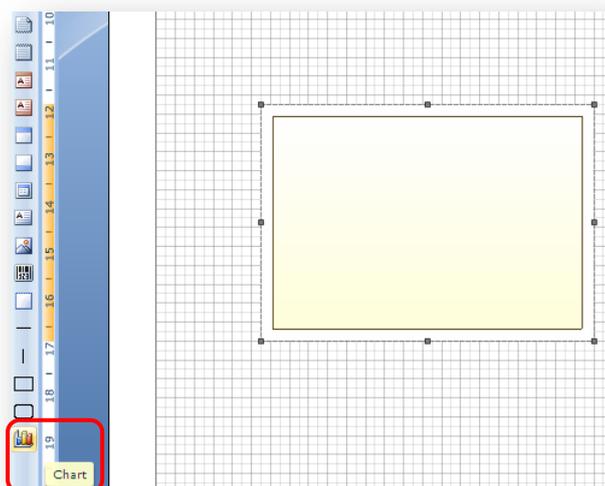
レポートの複製の詳細な手順については、第5章「レポートの作成と変更」を参照してください。

ここでは、コンバージョンに関連する情報のみを表示した単純な棒グラフを作成するため、最初に、このレポートに含まれるプロファイルに関する情報をすべて削除します。必要に応じて、見出しを変更することもできます。

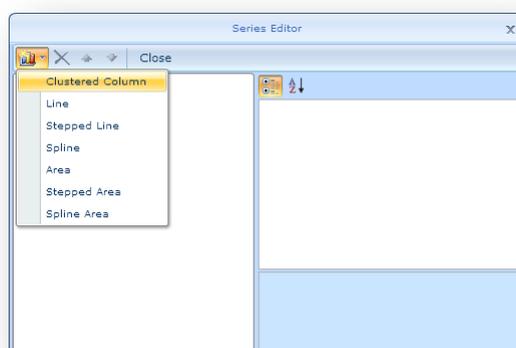
### 3.3.1 棒グラフの作成

新しい棒グラフを作成する方法:

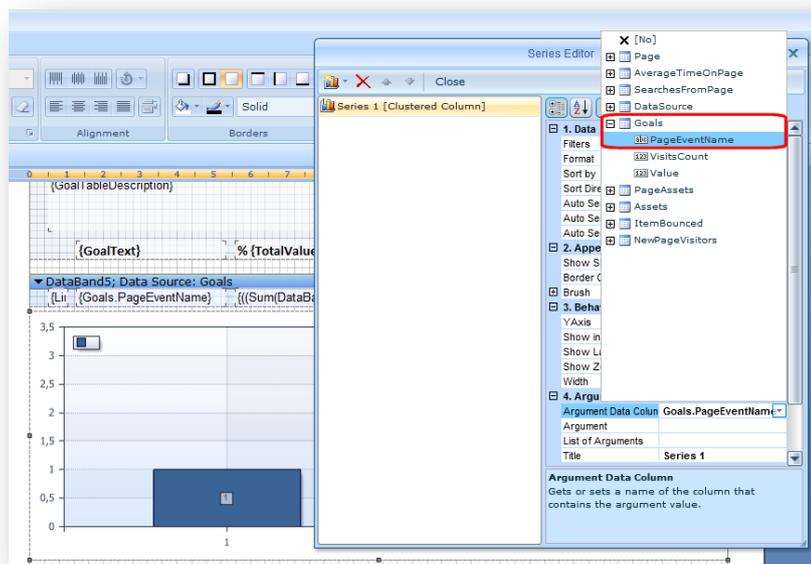
1. コンテンツ エディターの [アイテム レポート] の下にある Page - Goals and Events レポートを開きます。
2. ページの上部にある [デザイン] をクリックして、Web Reports Designer でレポートを開きます。
3. Web Reports Designer のツールボックスで、[チャート] をクリックして、鉛筆ツールで、棒グラフを収めるボックスを描きます。



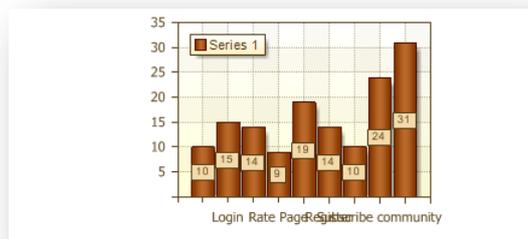
4. 作成したボックスをダブルクリックして、[シリーズ エディター] ウィンドウを開きます。



5. チャートの種類として [集合棒グラフ] を選択します。
6. チャートの種類を選択すると、[シリーズ エディター] ウィンドウの右側のパネルに、チャートに設定できるプロパティが表示されます。[4. Argument] プロパティを選択します。
7. **Argument Data Column** フィールドで、アナリティクス データベース テーブルの名前と、その後列名を続けて入力します。たとえば、[テキスト エディター] ポップアップ ウィンドウに「Goals.PageEventName」と入力します。これは、チャートの下部に表示される X 軸の設定方法です。



8. [値データ列] プロパティに、同じテーブルの名前と、別の列の名前を入力します。たとえば、「Goals.Value」と入力します。
9. [シリーズ エディター] ウィンドウの他のフィールドのいずれかを選択し、[閉じる] をクリックして、変更を保存するとともに [シリーズ エディター] ウィンドウを終了します。
10. レポートを保存して、Web Reports Designer を閉じ、Engagement Analytics でレポートをプレビューします。チャートが以下のように表示されます。



次に、チャートのフォーマットを改良することができます。

### 3.3.2 チャートのフォーマット

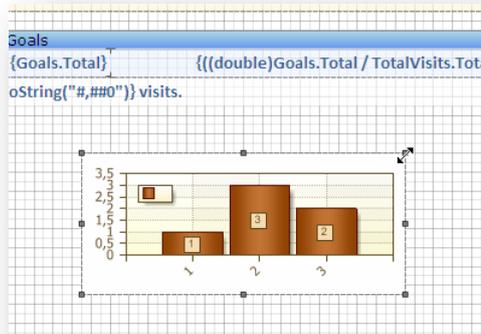
Web Reports Designer で、作成した棒グラフを使用して、スタイルを追加したり、色などのフォーマットを追加するプロパティを設定することができます。

チャートは、レポート ヘッダー、グループ ヘッダー、データ ソース、テキスト ボックスなど、任意のレポート コンポーネントに配置できますが、通常は、レポート内の他のコンポーネントの上か下に表示されます。

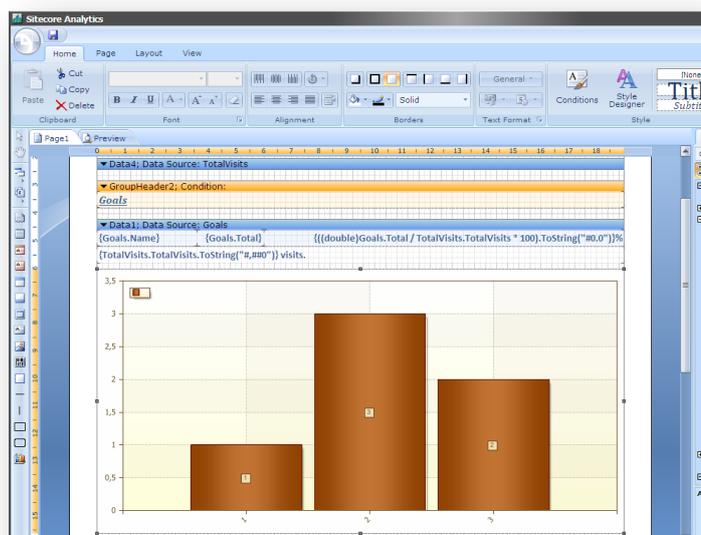
## チャートのサイズの変更

チャートのサイズを変更する方法:

1. 先ほど作成したチャートをクリックします。
2. チャートがデータ帯の直下に配置されていることを確認します。そして、サイズ変更の矢印が表示されるように、マウスをチャートに合わせます。



3. チャートの幅がレポート作業領域全体の幅になるようにサイズを調整します。



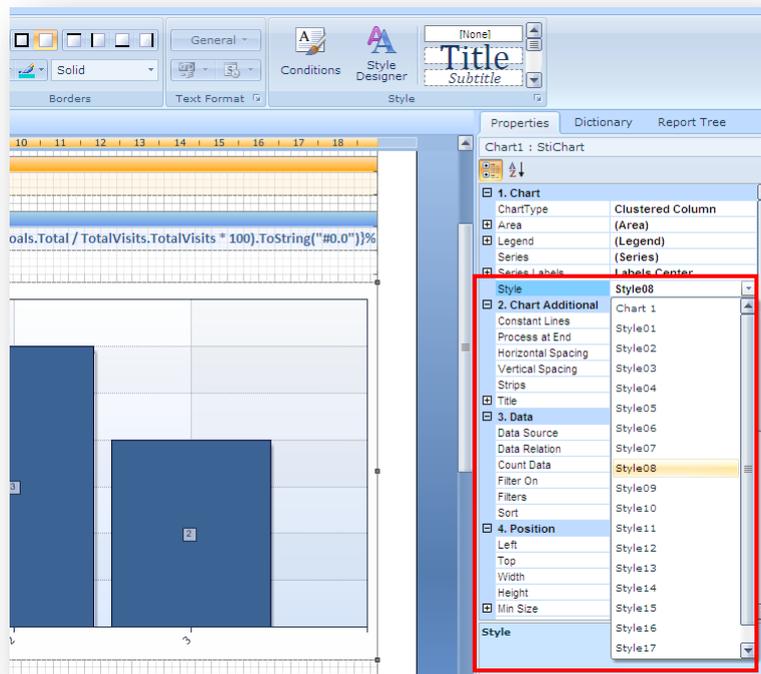
## チャートの色の変更

Web Reports Designer で、事前定義されたスタイルを使用してチャートの配色を変更できます。また、カスタムの配色を作成することもできます。

チャートの配色を変更する方法:

1. Web Reports Designer でチャートを選択します。
2. ページの右側の [プロパティ] タブをクリックして、チャートのプロパティを表示します。

3. プロパティ [1. Chart] の [Style] をクリックしてからドロップダウン メニューをクリックし、使用可能なチャートスタイルを表示します。

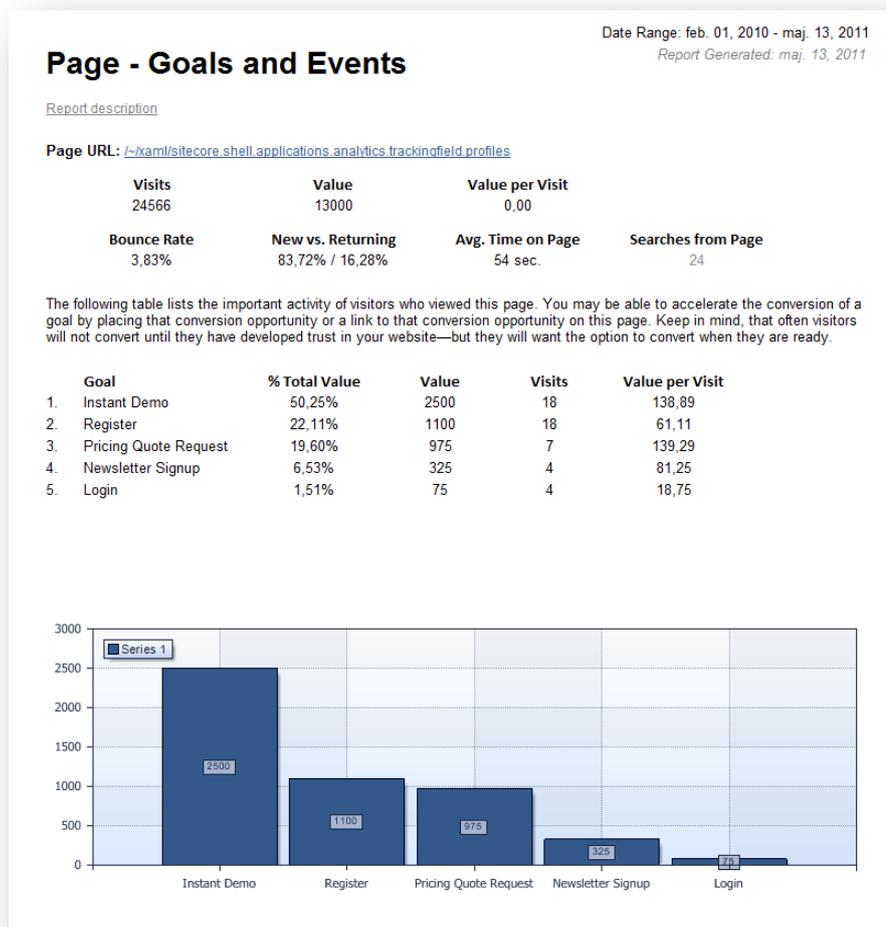


4. Style08 を選択します。

スタイルを選択すると、選択した配色のプレビューが Web Reports Designer で表示されます。

5. 変更を保存して、Web Reports Designer を閉じます。

## 6. Engagement Analytics でレポートをプレビューします。レポートが以下のように表示されます。



### ヒント

Web Reports Designer を開いたり、閉じたりするたびに、ロードするのに数秒かかります。Engagement Analytics のインスタンスをもう1つ開いたままにしておくと、変更をすぐにプレビューできます。

### チャート ラベルの追加

チャートにラベルを追加できます。たとえば、X 軸と Y 軸にラベル、タイトル、または凡例を追加できます。凡例とは、色の異なる複数の棒グラフがある場合に参照できるキーのようなものです。

#### チャート ラベルの概要:

[プロパティ] パネルを使用して、チャートにラベルを追加します。チャートには、多くのさまざまなプロパティを設定できます。最初に以下のものを追加します。

- X 軸と Y 軸のタイトル
- キーまたは凡例
- 各棒グラフに表示されるラベル

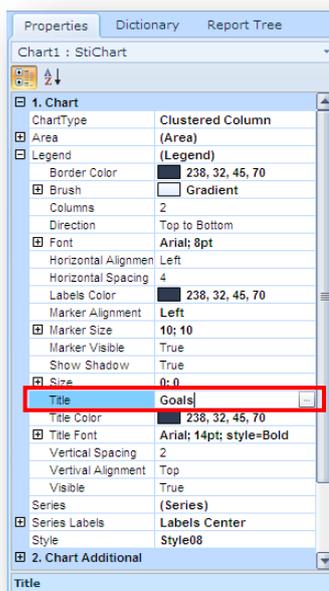
これを行うには、[1. Chart] プロパティを使用します。

以下の表に、[Chart] にあるいくつかの主なプロパティの概要を示します。

プロパティ (例)	説明	値
Area <ul style="list-style-type: none"> <li>• X Axis               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Title                   <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Text</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>• Y Axis               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Title                   <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Text</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>• Color Each</li> </ul>	Area には、いくつかのプロパティが含まれており、これでチャート領域のフォーマットを制御できます。これには、境界線、背景、または X 軸と Y 軸のラベルが含まれます。  Color Each を使用すると、すべての棒グラフを同じ色にするか、異なる色にするかを決定できます。	X 軸に表示されるタイトルを入力します (チャートの下部にある水平な線の下に表示)  Y 軸に表示されるタイトルを入力します (チャートの横にある垂直な線に沿って表示)  True または False
Legend <ul style="list-style-type: none"> <li>• Title</li> </ul>	Legend はキーを意味します。これは、グラフ内の色の異なる部分についての情報がキーに示されるため、円グラフの場合に特に便利です。	キーに表示されるタイトルを入力します。たとえば、「目標」と入力します。
Series Labels <ul style="list-style-type: none"> <li>• Visible</li> </ul>	Series Labels プロパティを設定して、ラベルを追加するか、チャートに表示される棒グラフのフォーマットを変更します。たとえば、各棒グラフのラベルを追加して、それを表示するかどうかを選択できます。	True または False

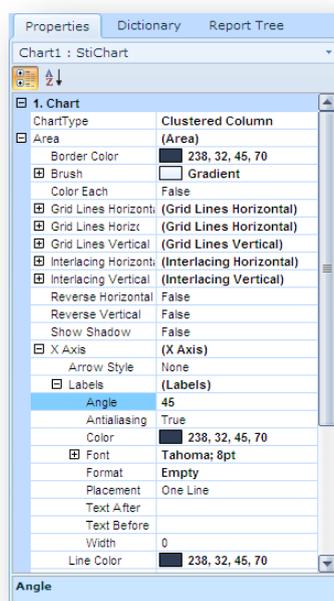
チャートの凡例のラベルを追加する方法:

1. Web Reports Designer でチャートを選択します。
2. [プロパティ] パネルで [Chart] を選択して、[Legend] ノードを展開します。
3. [Title] フィールドに「目標」と入力します。



チャートの X 軸と Y 軸にラベルを追加する方法:

1. Web Reports Designer でチャートを選択します。
2. [プロパティ] パネルで [Chart] を選択して、次のプロパティを展開します。
  - Area
  - X Axis
  - Labels
  - Angle
3. [Angle] プロパティに「45」と入力します。



これは、ラベルのテキストがすべてチャートに表示されるように、X 軸のすべてのラベルを 45 度の角度で表示することを意味します。

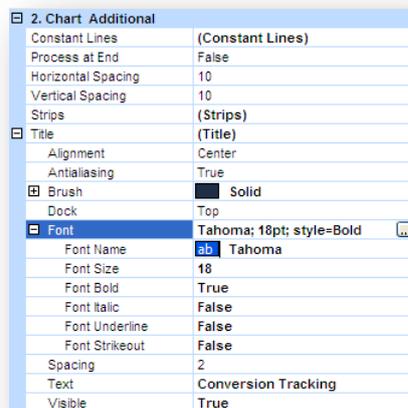
チャート タイトルを追加する方法:

1. Web Reports Designer でチャートを選択します。
2. 次のプロパティを展開します。
  - Chart Additional
  - Title
  - Text
3. [Text] プロパティに、「コンバージョン」などの名前を入力します。
4. [Visible] プロパティを True に設定します。

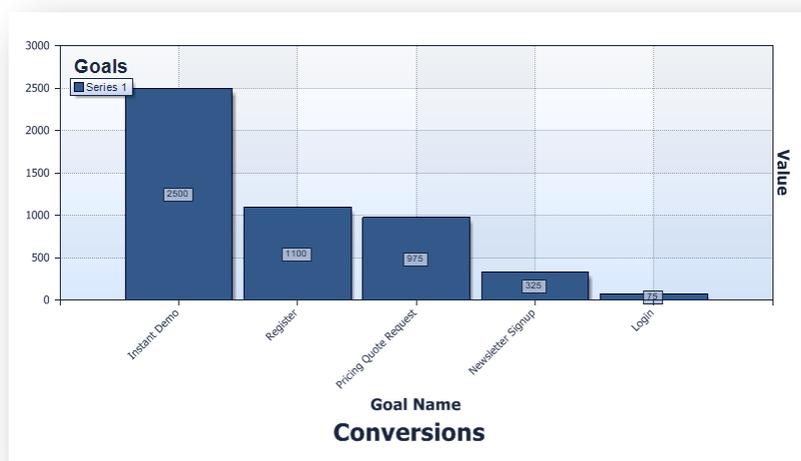
5. Chart Additional を使用すると、その他のプロパティをいくつか設定できます。

チャートに、次の追加プロパティを設定します。

プロパティ	値
Alignment	Center
Dock	Bottom
Font Size	18
Font Bold	True



6. Engagement Analytics でチャートを保存し、プレビューします。



### 3.3.3 円グラフの作成

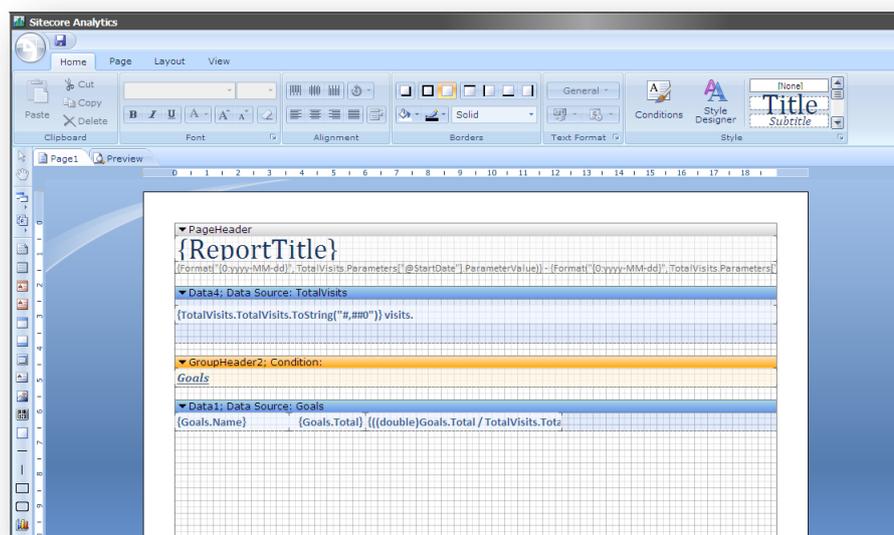
訪問者の目標を円グラフで表示したレポートを作成します。

準備:

1. **Engagement Analytics** でレポートを選択します。たとえば、Page - Goals and Events を選択します。  
このレポートを、円グラフのレポートの土台として使用します。このレポートにはすでに目標のデータソースが含まれており、これを再利用できます。
2. コンテンツ ツリーでレポート定義アイテムを見つけます。  
`/sitecore/system/Settings/Analytics/Reports/Item Reports/Page - Goals and Events`
3. このレポートを複製して、複製の名前を Visitor Goals Chart に変更します。
4. このレポートに関連付けられた、次の .mrt ファイルを見つけます。PageGoalsEvents.mrt。  
`wwwroot¥<site name>¥WebSite¥sitecore¥shell¥Applications¥Analytics¥Reports¥ItemReports`
5. PageGoalsEvents.mrt のコピーの名前を VisitorGoalsChart.mrt に変更します。

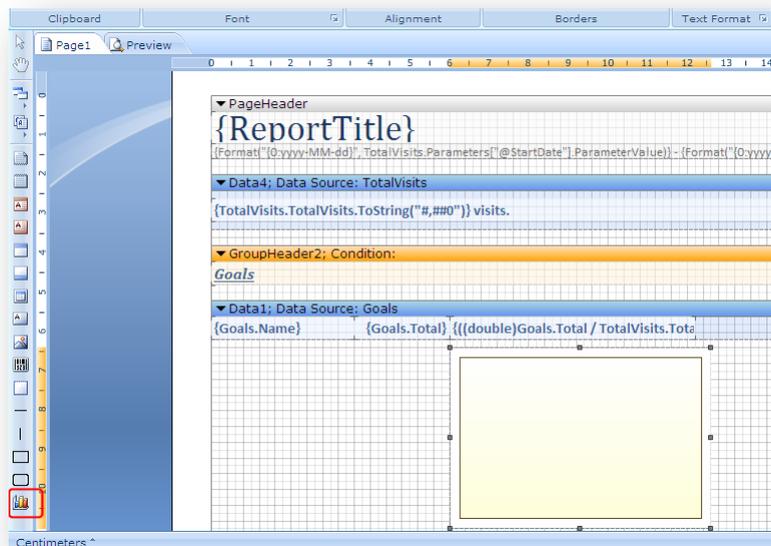
新しい円グラフを作成する方法:

1. **Engagement Analytics** でレポート コンテンツ ツリーを更新します。
2. Visitor Goals Chart レポートを選択します。
3. **[デザイン]** をクリックして、Web Reports Designer を開きます。
4. プロファイルを表すデータ帯とヘッダーをすべて削除します。これを行うには、データ帯をクリックして、リボンで **[削除]** をクリックします。これで、レポートのレイアウトには目標のみが表示されます。

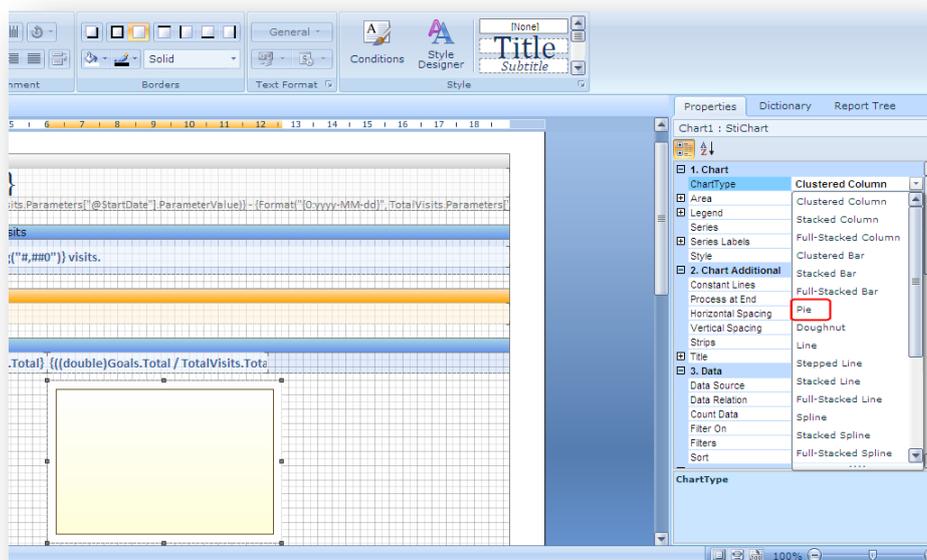


5. ツールボックスで **[チャート]** をクリックします。

- 鉛筆ツールを使用して、レポート レイアウト上にチャートのボックスを描画します。

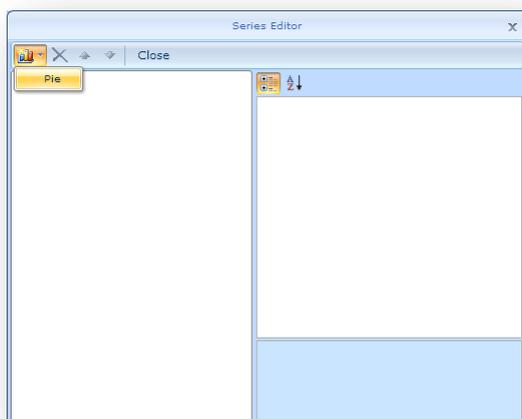


- 描画した空のボックスを選択して、[プロパティ] パネルで、**Chart Type** プロパティから **Pie** を選択します。

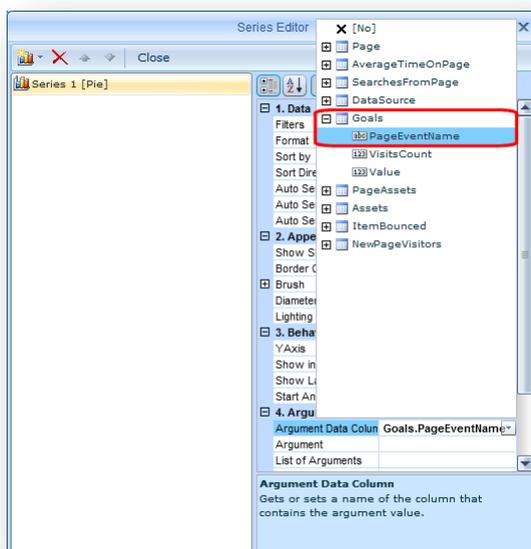


- 作成した円グラフをダブルクリックして、[シリーズ エディター] ウィンドウを開きます。

9. [シリーズ エディター] ウィンドウで [円グラフ] をクリックして、円グラフのプロパティを表示します。

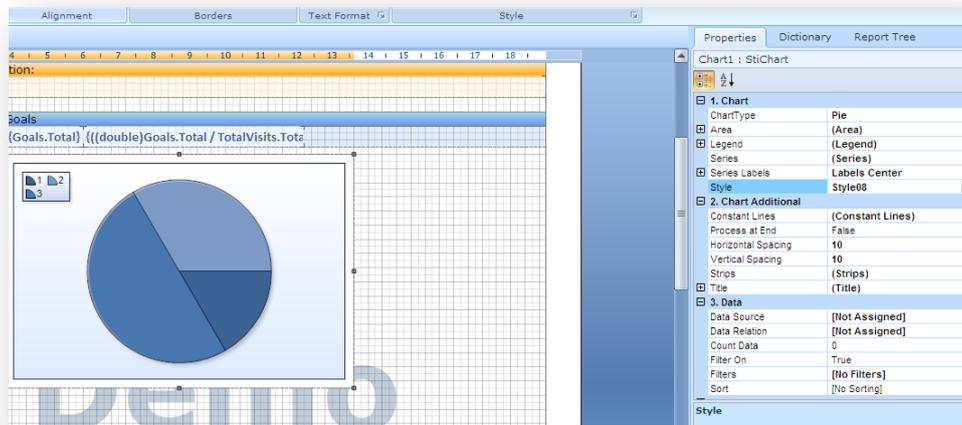


10. [シリーズ エディター] ウィンドウで、円グラフに表示する列を選択します。[Argument Data Column] プロパティのドロップダウン リストから Goals.PageEventName を選択します。



11. [Value Data Column] プロパティに「Goals.Value」と入力します。
12. 変更を保存するために、[シリーズ エディター] ウィンドウ内のいずれかのフィールドを選択して [閉じる] をクリックします。

13. 作成した円グラフを選択します。[プロパティ] パネルで **Chart**、**Style** の順にクリックして、ドロップダウン リストから **Style08** を選択します。

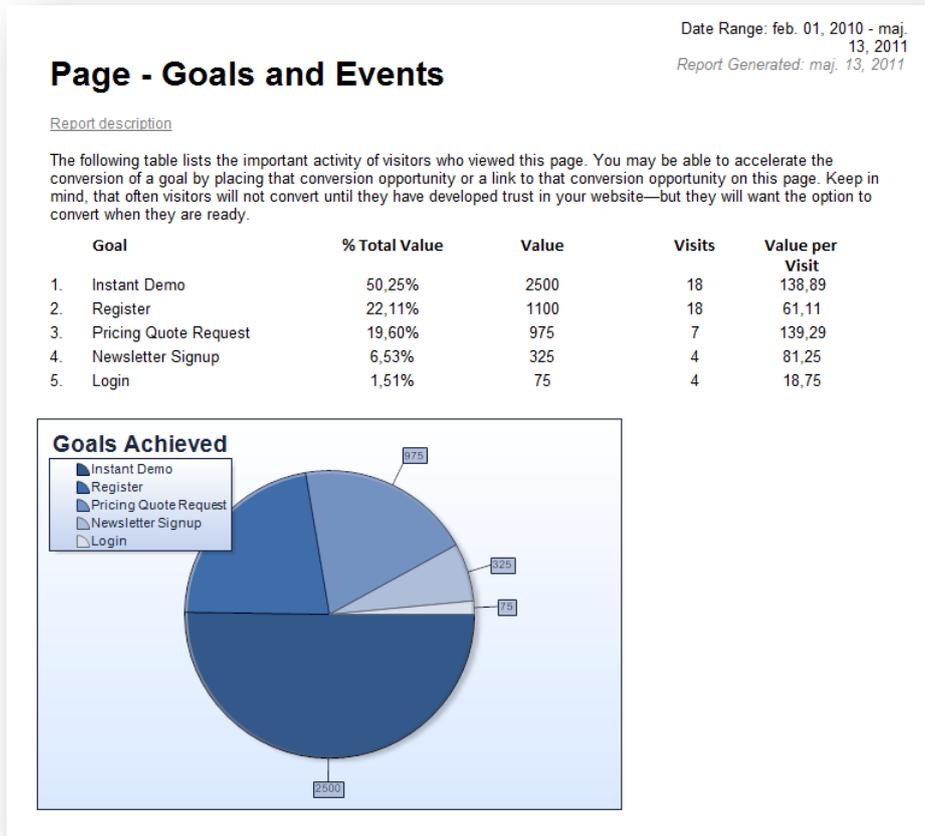


14. 凡例を追加してフォーマットするには、[プロパティ] パネルで次のプロパティを設定します。

プロパティ	値
Legend、Title	達成した目標
Legend、Columns	1
Legend、Direction	Right to Left
Series Labels	Outside
Series Labels、Legend Value Type	Argument

15. Stimulsoft メニューで **[レポートを保存]** をクリックします。

Engagement Analytics で、作成した目標の円グラフをプレビューします。



## 3.4 レポートへのイメージの追加

レポートにイメージを追加する場合は、Web Reports Designer で、イメージへの URL リンクを入力します。Windows Reports Designer を使用している場合は、コンピューター内を参照してイメージを探することができます。

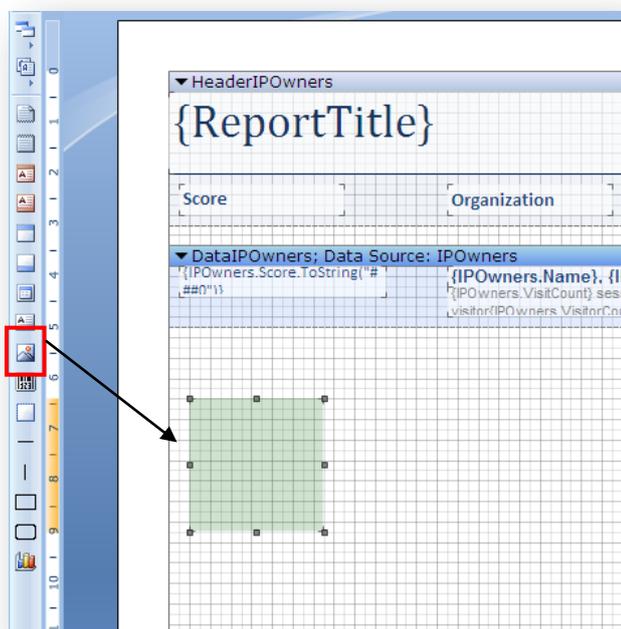
このセクションでは、前のセクションで作成した Visitor Goals Chart にイメージを追加します。これは、Stimulsoft ファイル PageGoalsEvents.mrt の複製です。

または、既存のレポートのいずれかにイメージを追加します。

### 3.4.1 メディア ライブラリ内のイメージへのリンク

レポートにイメージを追加する方法：

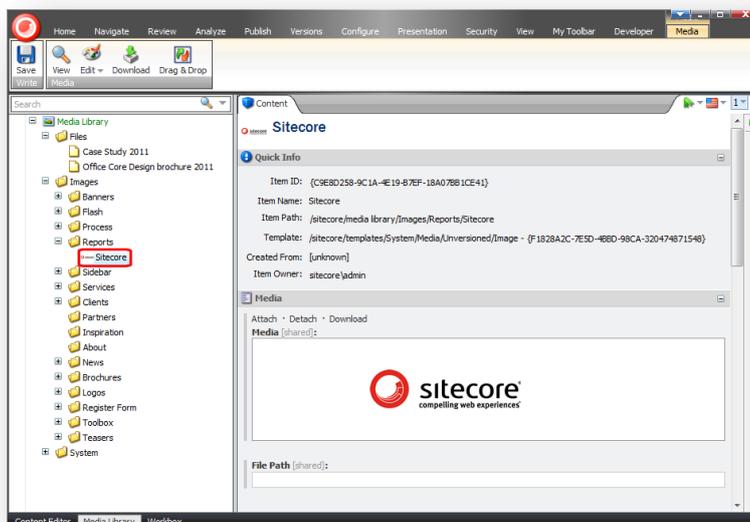
1. Web Reports Designer で Visitor Goals Chart を開きます。
2. ツールボックスで [イメージ] をクリックして、新しいイメージ プレースホルダーをレポートにドラッグします。



3. ボックスをダブルクリックして [イメージ] ダイアログ ボックスを開きます。
4. [イメージ] ダイアログ ボックスには、次のオプションがあります。

オプション	説明
データ列	データベースにストアされた BLOB イメージにリンクします
イメージ データ	{MyImageVariable} などのイメージ変数を入力します
URL	メディア ライブラリ内または外部サーバー上にあるイメージにリンクする URL 文字列を入力します

- メディア ライブラリにストアされたイメージにリンクします。メディア ライブラリを開き、コンテンツ ツリーでイメージ Sitecore を見つけます。



- イメージを選択して、[メディア] グループのリボンで [表示] をクリックします。



- ポップアップ ウィンドウを右クリックしてプロパティを選択します。



- [プロパティ] ウィンドウの [アドレス] フィールドで、イメージの URL を選択してコピーします。

9. Web Reports Designer の [イメージ] ダイアログ ボックスで、URL を [イメージ URL] フィールドに貼り付けます。



メディア ライブラリ内の Sitecore ロゴの URL は、次のとおりです。

http://<website>/sitecore/shell/Applications/Content%20Manager/~media/Images/Reports/Sitecore.ashx?db=master&la=en&vs=1&ts=20110513T1402420511

10. レポート上の適切な位置にイメージを移動します。たとえば、右上隅 (レポート タイトルの隣) に移動します。

イメージは、レポートのヘッダーや Engagement Analytics レポートの他のコンポーネントに簡単に追加できます。

11. [OK] をクリックして [イメージ] ダイアログ ボックスを閉じます。  
 12. 変更を保存して、Engagement Analytics でレポートをプレビューします。

## Page Goals


  
Report Generated: maj. 13, 2011

[Report description](#)

The following table lists the important activity of visitors who viewed this page. You may be able to accelerate the conversion of a goal by placing that conversion opportunity or a link to that conversion opportunity on this page. Keep in mind, that often visitors will not convert until they have developed trust in your website—but they will want the option to convert when they are ready.

	Goal	% Total Value	Value	Visits	Value per Visit
1.	Instant Demo	50,25%	2500	18	138,89
2.	Register	22,11%	1100	18	61,11
3.	Pricing Quote Request	19,60%	975	7	139,29
4.	Newsletter Signup	6,53%	325	4	81,25
5.	Login	1,51%	75	4	18,75

### 3.4.2 外部サーバー上のイメージへのリンク

外部サーバーまたは Web サイト上にイメージがストアされている場合は、[URL] フィールドを使用してそれらにリンクできます。

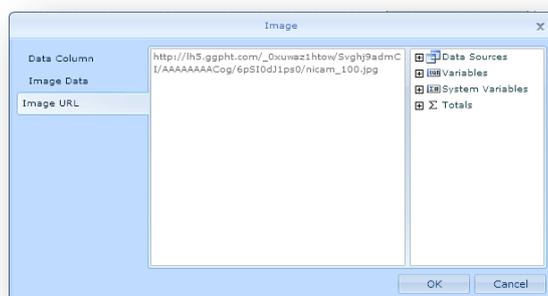
外部サーバー上のイメージへのリンクを追加する方法:

1. ツールボックスを使用して、レポートにイメージ ボックスを追加します。
2. イメージ ボックスをダブルクリックして [イメージ] ダイアログ ボックスを開きます。
3. [URL] フィールドに、イメージの場所へのリンクを入力します。この例では、別のバージョンの Sitecore ロゴが外部の Web サイトにストアされています。この方法でストアされているイメージのほとんどは、そのプロパティに完全な URL が含まれています。イメージのプロパティを開いて、イメージの URL 文字列をコピーします。

この例でのイメージの URL は、次のとおりです。

[http://lh5.ggpht.com/\\_0xuwaz1htow/Svghj9admCI/AAAAAAAAACog/6pSI0dJ1ps0/sitecore.png](http://lh5.ggpht.com/_0xuwaz1htow/Svghj9admCI/AAAAAAAAACog/6pSI0dJ1ps0/sitecore.png)

4. [イメージ] ダイアログ ボックスで、URL を [イメージ URL] フィールドに貼り付けます。

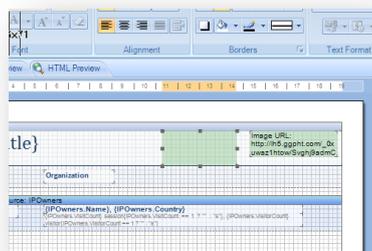


5. [OK] をクリックしてレポートを保存します。
6. Engagement Analytics でレポートをプレビューします。

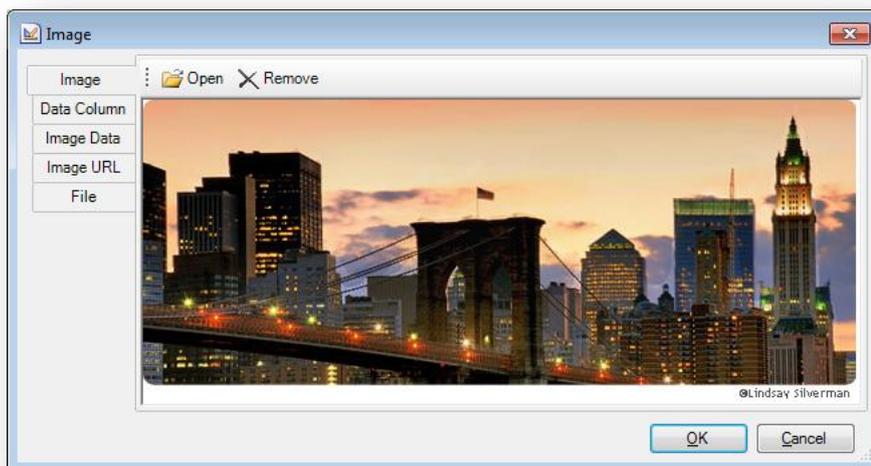
### 3.4.3 イメージのアップロード

このセクションでは、ローカル コンピューターからイメージをアップロードします。同じレポートを使用して、2 番目のイメージをタイトル セクションに追加します。これを行うには、Stimulsoft Windows Reports Designer クライアントが必要です。

1. Windows Reports Designer クライアントを開きます。
2. レポートのタイトル ヘッダーに、イメージ ボックスをもう 1 つ追加します。



3. イメージ ボックスをダブルクリックして [イメージ] ダイアログ ボックスを開きます。



4. [イメージ] フィールドで [開く] をクリックし、コンピューターを参照して適切なイメージを探します。イメージが見つかったら、[OK] をクリックします。
5. Engagement Analytics でレポートをプレビューします。

## Page Goals



©Lindsay Silverman



Report Generated: maj, 13, 2011  
[Report description](#)

The following table lists the important activity of visitors who viewed this page. You may be able to accelerate the conversion of a goal by placing that conversion opportunity or a link to that conversion opportunity on this page. Keep in mind, that often visitors will not convert until they have developed trust in your website—but they will want the option to convert when they are ready.

	Goal	% Total Value	Value	Visits	Value per Visit
1.	Instant Demo	50,25%	2500	18	138,89
2.	Register	22,11%	1100	18	61,11
3.	Pricing Quote Request	19,60%	975	7	139,29
4.	Newsletter Signup	6,53%	325	4	81,25
5.	Login	1,51%	75	4	18,75

## メモ

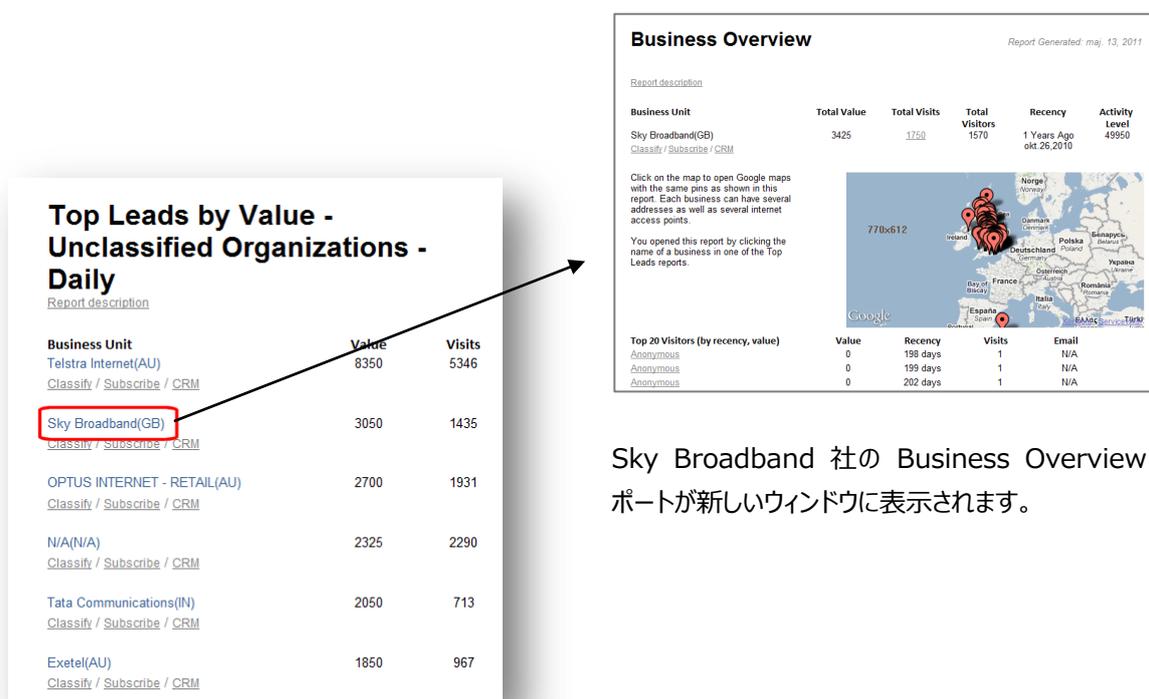
Windows Reports Designer の [イメージ] ダイアログ ボックスには、Web Reports Designer の同じダイアログ ボックスよりも多くのオプションがあります。たとえば、[ファイル] タブを使用して、ローカルにストアされたイメージにリンクできます。[イメージ データ] フィールドで、イメージの変数名を指定できます。この変数または式は、デベロッパーがイメージを処理するときに使用できます。

## 3.5 レポートへのリンクの追加

Sitecore Engagement Analytics には、使用できるハイパーリンクが 3 種類あります。

- 同じ Web サイトの別のページへのリンク
- 外部 Web サイトへのリンク
- Engagement Analytics の別のレポートへのリンク

たとえば、Top Leads by Value レポートには、訪問者の企業名から作成された Business Overview レポートへのリンクが含まれます。



The image shows two screenshots. The left screenshot is titled "Top Leads by Value - Unclassified Organizations - Daily". It contains a table with columns for Business Unit, Value, and Visits. The row for "Sky Broadband(GB)" is highlighted with a red box. An arrow points from this box to the right screenshot. The right screenshot is titled "Business Overview" and shows a summary for "Sky Broadband(GB)" with metrics like Total Value (3425), Total Visits (1750), and Total Visitors (1570). It also includes a map of Europe with pins and a table of "Top 20 Visitors (by recency, value)".

Business Unit	Value	Visits
Telstra Internet(AU)	8350	5346
<b>Sky Broadband(GB)</b>	3050	1435
OPTUS INTERNET - RETAIL(AU)	2700	1931
N/A(N/A)	2325	2290
Tata Communications(IN)	2050	713
Exetel(AU)	1850	967

Business Unit	Total Value	Total Visits	Total Visitors	Recency	Activity Level
Sky Broadband(GB)	3425	1750	1570	1 Years Ago	49950

Top 20 Visitors (by recency, value)	Value	Recency	Visits	Email
Anonymous	0	198 days	1	N/A
Anonymous	0	199 days	1	N/A
Anonymous	0	202 days	1	N/A

Sky Broadband 社の Business Overview レポートが新しいウィンドウに表示されます。

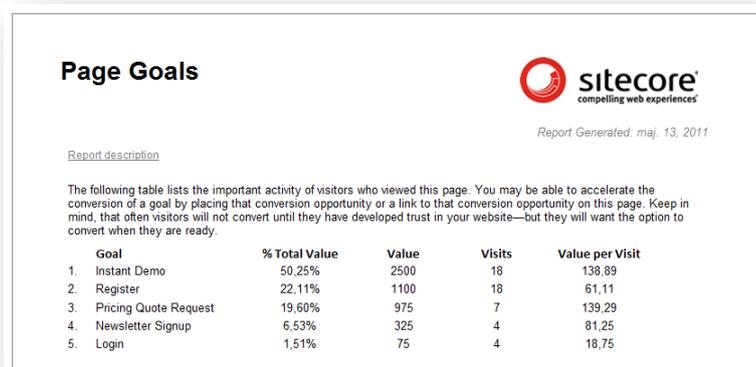
Top Leads By Value レポート。

### 3.5.1 Web サイトにリンクする方法

適切なレポートを選択します。たとえば、前のセクションで作成した Visitors Goal Chart を選択します。このレポートには、Office Core Web サイトにアクセスした訪問者が達成した目標のリストが含まれ、さらに値、訪問、および総訪問数 (関連性) のリストも含まれます。

このレポートの Sitecore ロゴから、Office Core Web サイトのホーム ページへの内部リンクを作成する方法:

1. Web Reports Designer で、選択したレポートを開きます。



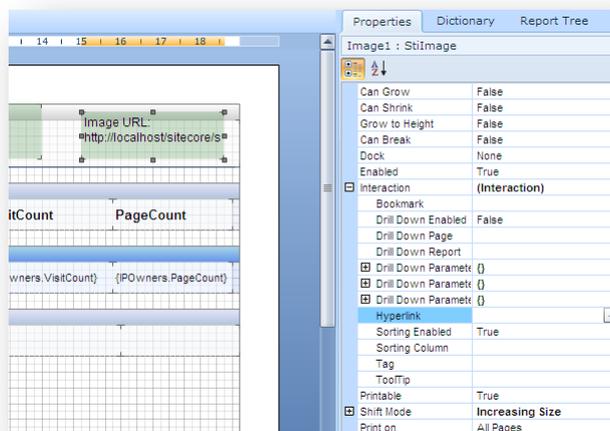
**Page Goals**

Report description

The following table lists the important activity of visitors who viewed this page. You may be able to accelerate the conversion of a goal by placing that conversion opportunity or a link to that conversion opportunity on this page. Keep in mind, that often visitors will not convert until they have developed trust in your website—but they will want the option to convert when they are ready.

Goal	% Total Value	Value	Visits	Value per Visit
1. Instant Demo	50.25%	2500	18	138.89
2. Register	22.11%	1100	18	61.11
3. Pricing Quote Request	19.60%	975	7	139.29
4. Newsletter Signup	6.53%	325	4	81.25
5. Login	1.51%	75	4	18.75

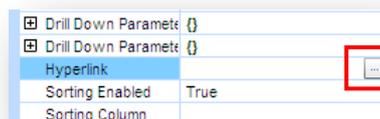
2. ハイパーリンクを設定するテキストまたはイメージをクリックします。この例では、Sitecore ロゴをクリックします。



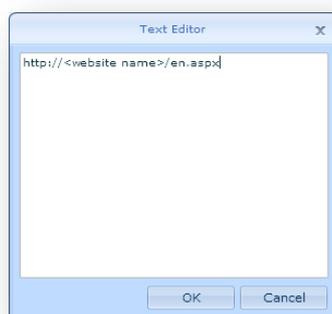
3. [プロパティ] パネルで、次のプロパティを展開します。

- Behavior
- Interaction
- Hyperlink

4. [Hyperlink] フィールドの隣のボックスをクリックして、テキスト エディターを開きます。



5. [テキスト エディター] ウィンドウに、Office Core ホーム ページにリンクする URL 文字列を入力します。



http://<website name>/en.aspx

6. [OK] をクリックして [テキスト エディター] ウィンドウを閉じます。
7. レポートを保存して、**Engagement Analytics** でレポートをプレビューし、リンクをチェックします。

### 外部 Web サイトにリンクする方法

同じレポートを使用して、Sitecore ロゴから [www.sitecore.net](http://www.sitecore.net) Web サイトへのリンクを作成します。

同じ手順に従って、リンク先にする Web サイトの完全なアドレスを入力します。たとえば、[www.sitecore.net](http://www.sitecore.net) のアドレスを [テキスト エディター] ウィンドウに入力します。

<http://www.sitecore.net/>

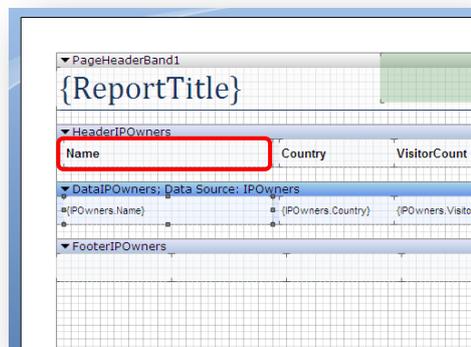
### 3.5.2 別のレポートへのリンクを作成する方法

Engagement Analytics の別のレポートへのリンクを作成する場合は、さらに配慮が必要です。このシナリオでは、Top Leads by Value レポートを使用します。今回は、レポートの本文に表示される企業名から Business Overview レポートへのリンクを再作成します。

Business Overview レポートへのリンクは便利です。その理由は、訪問、訪問の値、最新性、場所、Visit(セッション) レポートへのリンクなど、Web サイトにアクセスする各企業に関する情報を得られるためです。

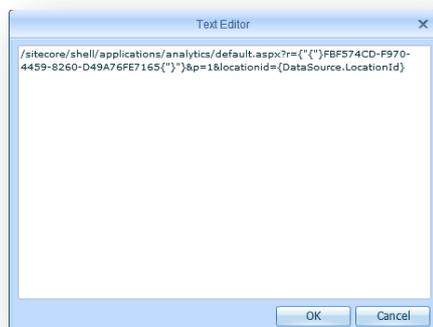
Business Overview レポートへのリンクを作成する方法:

1. Top Leads by Value レポート、または選択した別のレポートを複製します。
2. Web Reports Designer で、企業名を含むテキスト ボックスを選択します。



3. [プロパティ] パネルで [Hyperlink] プロパティを選択して、**テキスト エディター**を開きます。
4. [テキスト エディター] ウィンドウで、次の URL 文字列を入力して、Visit レポートへのリンクを作成します。

```
/sitecore/shell/applications/analytics/default.aspx?r="{ }FBF574CD-F970-4459-8260-D49A76FE7165{ }"}&p=1&locationid={DataSource.LocationId}
```



この URL 文字列のフォーマットは、通常のハイパーリンクとは大きく異なります。次の表で、この URL の各部分について説明します。

文字列	説明
/sitecore/shell/applications/analytics/default.aspx?	レポート実行機能を実行する Sitecore ページ
r="{ }FBF574CD-F970-4459-8260-D49A76FE7165	Business Overview レポート アイテムの ID
&p=1&	ポップアップ ウィンドウを開きます
locationid={ DataSource.LocationId }	訪問者セッションを、レポートに表示された企業名にリンクします

DataSource.LocationId は、レポートで設定されたデータ ソースを表します。URL のこの部分は、設定したデータ ソースに応じて編集できます。

アイテム ID は、リンクを作成するレポートに応じて異なります。

5. [OK] をクリックして [テキスト エディター] ウィンドウを閉じます。
6. レポートを保存して、**Engagement Analytics** でレポートを実行し、リンクをテストします。

## 第 4 章

# アナリティクス データベース

この章では、アナリティクス データベースについて説明し、レポートを処理する SQL デベロッパーに役立つ情報を示します。すべての Engagement Analytics レポートは、アナリティクス データベース内のテーブルにアクセスする SQL クエリまたは SQL ビューを使用します。

- アナリティクス データベースについて
- アナリティクス データベース テーブル
- SQL ビュー

### 注意

アナリティクス データベースをよく理解しており、SQL クエリの記述について詳しい知識がある場合は、自分用の Sitecore レポートを作成できます。確実に最適なパフォーマンスを得るための最善の方法は、SQL クエリを手動で記述して追加のビューを作成することです。サードパーティのツールを使用して SQL 文を生成すると、非効率的なクエリが作成され、レポートのパフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。

## 4.1 アナリティクス データベースについて

新しいレポートを作成する場合は、次の点を考慮します。

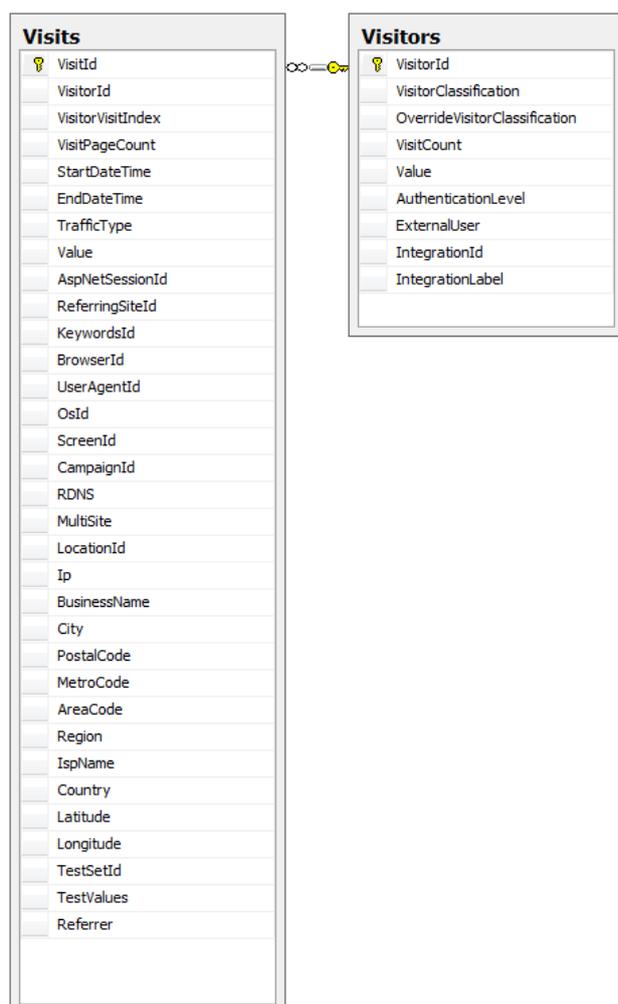
- どんな情報をレポートに表示するか
- どのテーブルを使用する必要があるか
- それらのテーブルをすでに使用しているレポートがあり、それを応用できるか
- 情報をレポート レイアウトでどのように表示するか

### 4.1.1 主なテーブルのグループ分け

アナリティクス データベースを理解するには、まず、重要なテーブルのグループ分けの概要について把握します。この章の以降のページでは、各テーブル グループの図と、各テーブルの目的の簡単な説明を示します。

### 4.1.2 Visits および Visitors テーブル

Visits および Visitors テーブルは、アナリティクス データベースの主要なテーブルです。これらは、データベースから取得するすべての情報の最初のアクセス ポイントと見なすことができます。

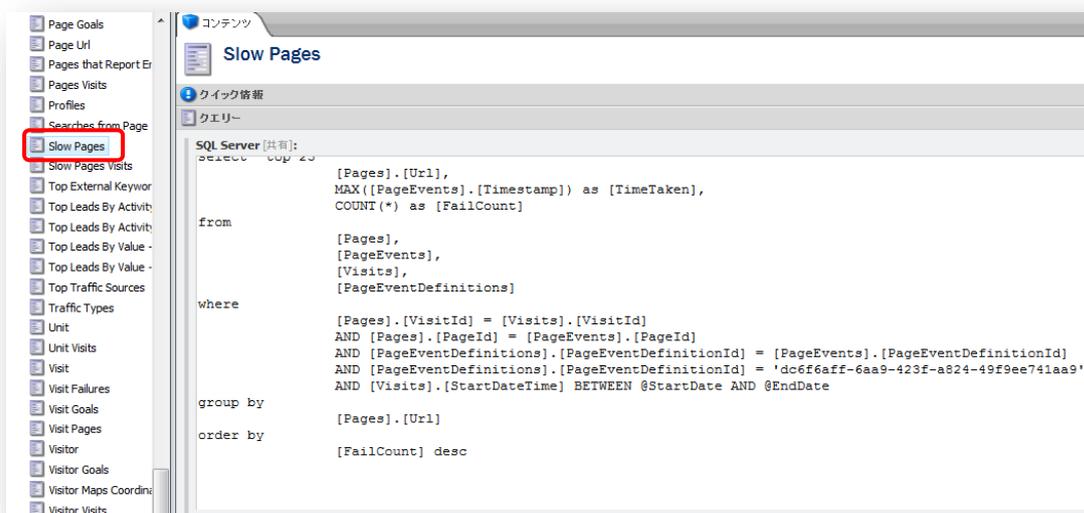


Web サイトの訪問者はすべて、Web サイトにアクセスするたびに新しいセッションを作成します。これらの訪問はすべて、Visits テーブルに表示されます。ほとんどのレポートは、他のテーブルに含まれる情報にアクセスする前に、最初にこのテーブルにアクセスする必要があります。

Visits および Visitors テーブルはいずれも、VisitorId 列を使用してグローバルな Cookie の値をストアします。

列名	説明
VisitorId	SC_ANALYTICS_GLOBAL_COOKIE 値

Engagement Analytics 内の既存のレポートを調べると、多くの標準 SQL クエリが Visits または Visitors テーブルを使用していることがわかります。次の SQL クエリは、Failures データ ソースから取得され、このデータ ソースから Slow Pages レポートが作成されています。



このクエリは Pages、PageEvents、PageEventDefinitions にアクセスし、Visits テーブルにもアクセスして、必要なデータを取得します。

### 4.1.3 SQL クエリ

SQL Server データベースを使用している場合は、レポートに表示するすべてのデータが、SQL クエリ言語を使ってアナリティクス データベースから取得されます。レポートの作成時には、SQL クエリを作成したり、応用したりすることも必要です。

SQL クエリは、手動で、または SQL Server Management Studio などのツールを使用して記述できます。

新しいクエリを編集または作成する前に、Sitecore Analytics の標準レポートを調べて、各クエリの構造を理解しておくことをお勧めします。各レポートは、1 つまたは複数のデータ ソースで構成されており、各データ ソースには 1 つの SQL クエリが含まれています。最初に既存のクエリを調べて、どのテーブルにアクセスして、どの列を表示するかを決定してください。

SQL クエリ言語をよく理解していなくてもレポートを作成できますが、特に Stimulsoft Query Builder などのツールを使用する場合は、SQL とアナリティクス データベースのテーブル構造を理解しておく、非常に役立ちます。

## SQL クエリの最適化

SQL に詳しい場合は、ほとんどのクエリを手動で記述し直して、より効率的なクエリにすることができます。また、レポート用のビューやインデックスを作成することも検討してください。ビューは、基本的に、他のクエリをより短時間で効率良く作成するための SQL クエリです。たとえば、ビューを使用して、各テーブル間の結合を再利用できます。

### メモ

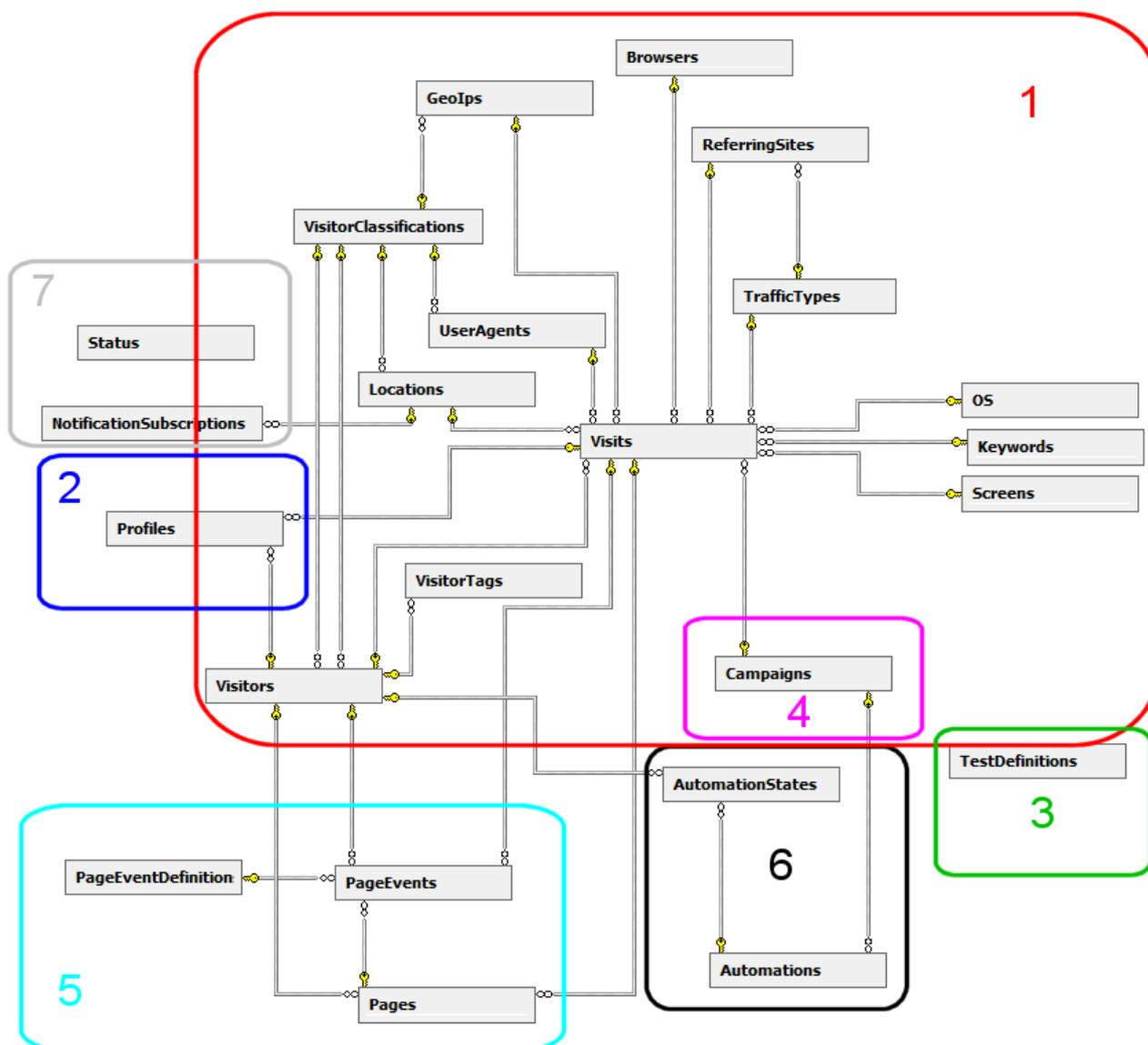
SQL Server データベースから Oracle データベースにアップグレードする場合は、Oracle で使用される SQL クエリ構文が SQL Server での構文とは若干異なることに注意してください。また、Transact SQL (TSQL) は、Oracle データベースでは使用できません。

次のセクションでは、いくつかの便利なテーブル グループの概要を示します。これは、SQL クエリを記述する場合に、レポートが必要とする適切なテーブルと列を見つけるために役立つことがあります。

## 4.2 アナリティクス データベース テーブル

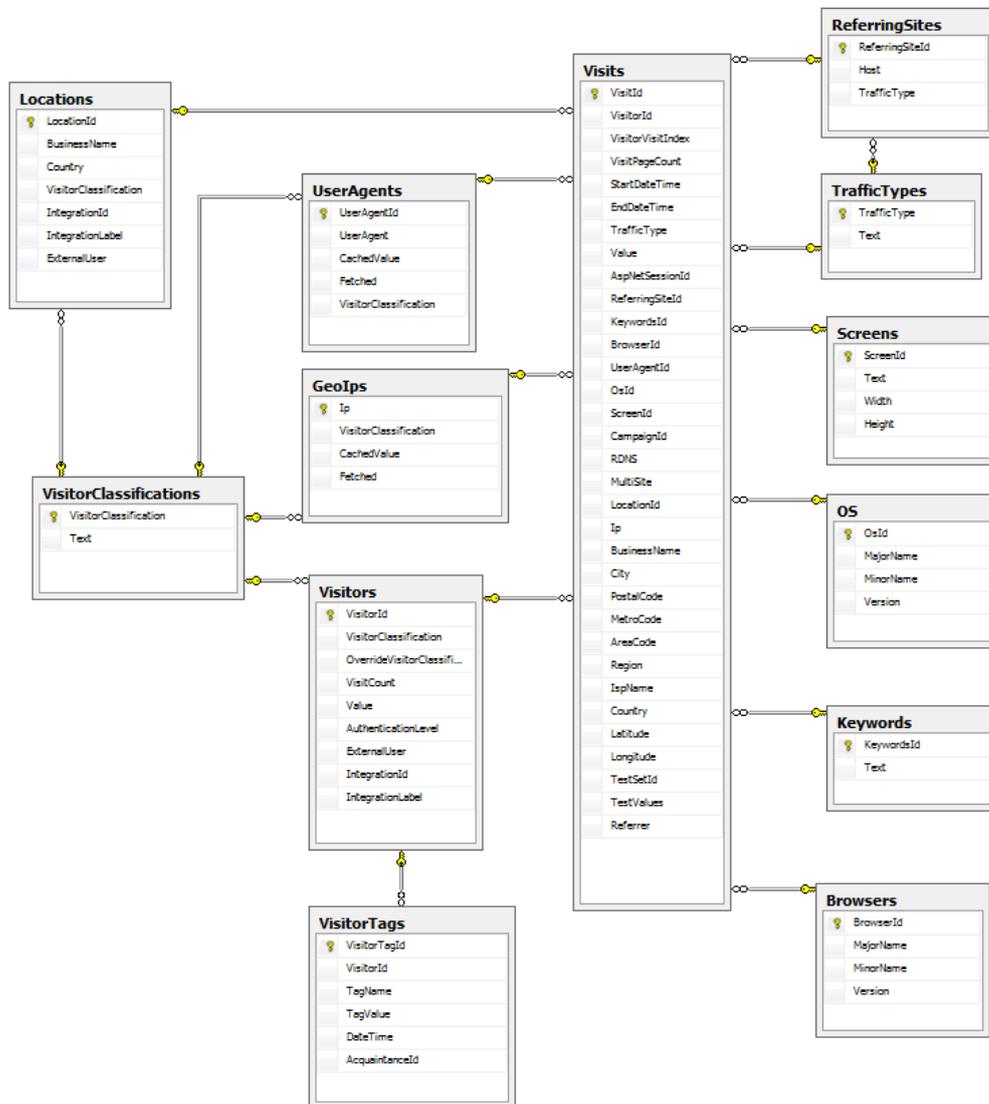
このセクションでは、アナリティクス データベースを主要なグループに分けて、それぞれについて解説します。次の図は、主要なテーブル、関係、およびグループを示します。

- 1 = 訪問者情報
- 2 = プロファイル情報
- 3 = MV テスト
- 4 = キャンペーン
- 5 = ページ イベント
- 6 = 自動化
- 7 = システム情報



## 4.2.1 訪問者情報

このテーブル グループは、サイトの訪問と訪問者に関する情報をキャプチャします。

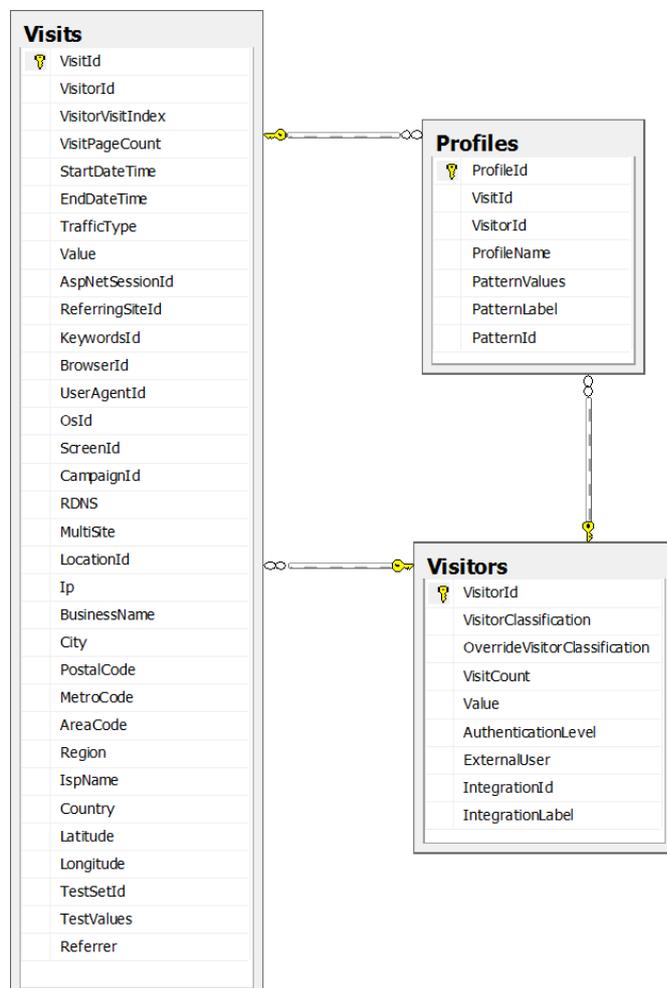


テーブル	説明
Visitors	<p>Visitors および Visits テーブルは、相互に深く関係しています。</p> <p>Web サイトへの新しい訪問者はそれぞれ、Visitors テーブルへのエントリとなり、1 つ または複数の訪問を Visits テーブルに追加します。</p> <p>次の列は、CRM またはその類似システムとの統合の拡張ポイントです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ExternalUser</li> <li>• IntegrationId</li> <li>• IntegrationLabel</li> </ul>
Visits	<p>Visits テーブルは、各訪問者によって行われた訪問を記録します。Visits テーブルは、IP アドレス、画面の解像度、ブラウザ、オペレーティング システムなどの特定の訪問者情報を記録する他のいくつかのテーブルへのアクセス ポイントです。</p> <p>訪問者の IP 情報は、都市、郵便番号、緯度、経度などの情報を見つける IP ルックアップ サービスから取得されます。</p> <p>Visits テーブル自体は、ISP 名、企業名、訪問が開始された都市をストアします。</p>
Visitor Tags	<p>タグは、アイテムを憶えやすくするために追加する詳細情報です。このフィールドは、Web フォームでも使用できます。</p>
Visitor Classifications	<p>Engagement Analytics では、分類されていない訪問者を、次のカテゴリのいずれかに分類できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Unidentified (不明)</li> <li>• Business (ビジネス)</li> <li>• ISP</li> <li>• Existing Customer (既存顧客)</li> <li>• Analyst (アナリスト)</li> <li>• Press (報道関係)</li> <li>• Supplier (サプライヤー)</li> <li>• Business Partner (ビジネス パートナー)</li> <li>• Competitor (競合他社)</li> <li>• My Company (自分の会社)</li> <li>• Bot - Feed Reader (ボット - フィードリーダー)</li> <li>• Bot - Search Engine (ボット - 検索エンジン)</li> <li>• Bot - Unidentified (ボット - 不明)</li> <li>• Bot - Auto Detected (ボット - 自動検出)</li> <li>• Bot - Malicious (ボット - 有害)</li> </ul>
Locations	<p>訪問者の出身国と企業名。</p>
Browsers	<p>サイトの訪問者が使用しているブラウザの種類とモデル。</p>

テーブル	説明
User Agents	ブラウザや Web クローラーなど、Web サイトにアクセスするクライアント アプリケーション。
Geo Ips	サイトの訪問者の地理的な場所を示します。
Referring Sites	訪問者のアクセス元の Web サイト。
Traffic Types	<p>Engagement Analytics では、すべての訪問が、異なる種類のトラフィックにセグメント化されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Direct (直接)</li><li>• Email (Email)</li><li>• Search Engine - Organic (検索エンジン - オーガニック)</li><li>• Search Engine - Branded (検索エンジン - ブランド付き)</li><li>• Paid (有料)</li><li>• Referred - Analyst (参照 - アナリスト)</li><li>• Referred - Blog (参照 - ブログ)</li><li>• Referred - Community (参照 - コミュニティ)</li><li>• Referred - Conversations (参照 - 会話)</li><li>• Referred - News (参照 - ニュース)</li><li>• Referred - Other (参照 - その他)</li><li>• Referred - Wiki (参照 - Wiki)</li><li>• RSS</li><li>• Unknown (不明)</li></ul> <p>トラフィックの種類は、マーケティング担当者が、最も効率的なマーケティング チャンネルを調べるのに役立ちます。</p>
OS	サイトの訪問者が使用しているオペレーティング システムの種類。
Keywords	サイトの訪問者が使用した検索エンジンの検索用語。
Screens	サイトの訪問者の画面サイズ。

## 4.2.2 プロファイル

Profiles テーブルには、訪問者プロフィールに関連するレコードが含まれます。このテーブルは、Visits および Visitors テーブルに紐付けられています。



テーブルの関係:

- Visitors テーブルには、Profiles テーブルとの間に 1 対多の関係があります。
- Visitors テーブルには、Visits テーブルとの間に 1 対多の関係があります。
- Visits テーブルには、Profiles テーブルとの間に 1 対多の関係があります。

Profile テーブルには、プロフィール アイテムの ID と、各訪問者プロフィールのパターン値が含まれます。

列名	説明
ProfileDefinitionId	プロフィール アイテムの ID
PatternId	一致したパターン アイテムの ID

訪問者が Web サイトにアクセスすると、作成した各プロフィール キーのパターン値が、このテーブルにストアされます。Profiles テーブルには、訪問者の ID、訪問、プロフィール、およびプロフィール定義アイテムも含まれます。

### 4.2.3 多変量テスト

TestDefinitions テーブルには、多変量テスト データがストアされます。多変量テストは、ページやキャンペーンからトリガーできます。

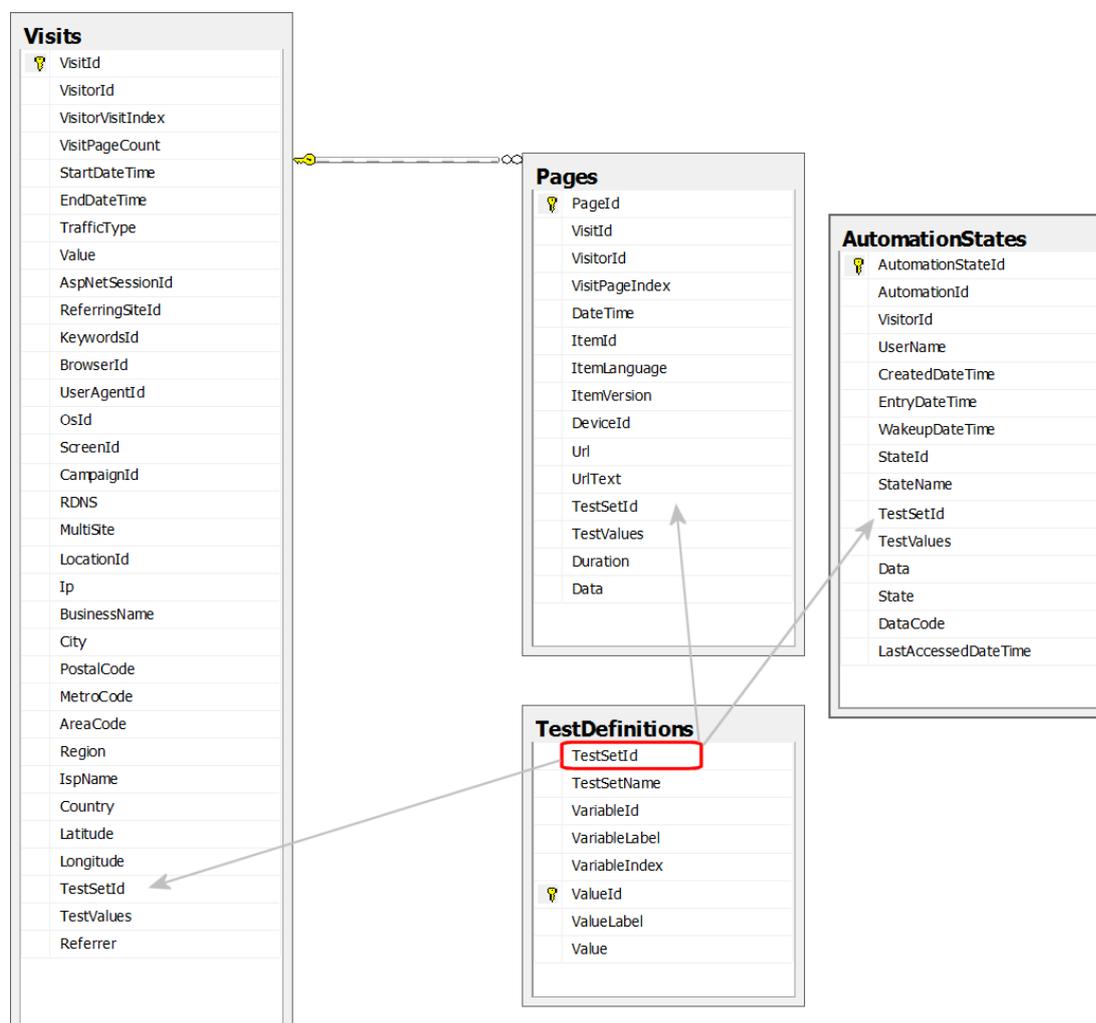
TestDefinitions テーブルには、各 MV テストの多変量テスト変数の ID が含まれます。

列名	説明
TestSetId	MV テスト定義アイテムの ID
VariableId	テスト変数アイテムの ID
ValueId	テスト バリエーション アイテムの ID

Register Form などのコントロールでテストを実行すると、MV テスト変数は、テストを実行するページにバインドされます。

ニュースレター メールなどの自動プランで MV テストをトリガーすると、MV テスト変数は、テストを実行する自動状態レコードにバインドされます。

The TestSetId 列は、TestDefinitions、Visits、Pages、および AutomationStates の間に論理リンクを作成します。データベース スキーマには、これらのテーブル間の実際のリンクは存在しません。

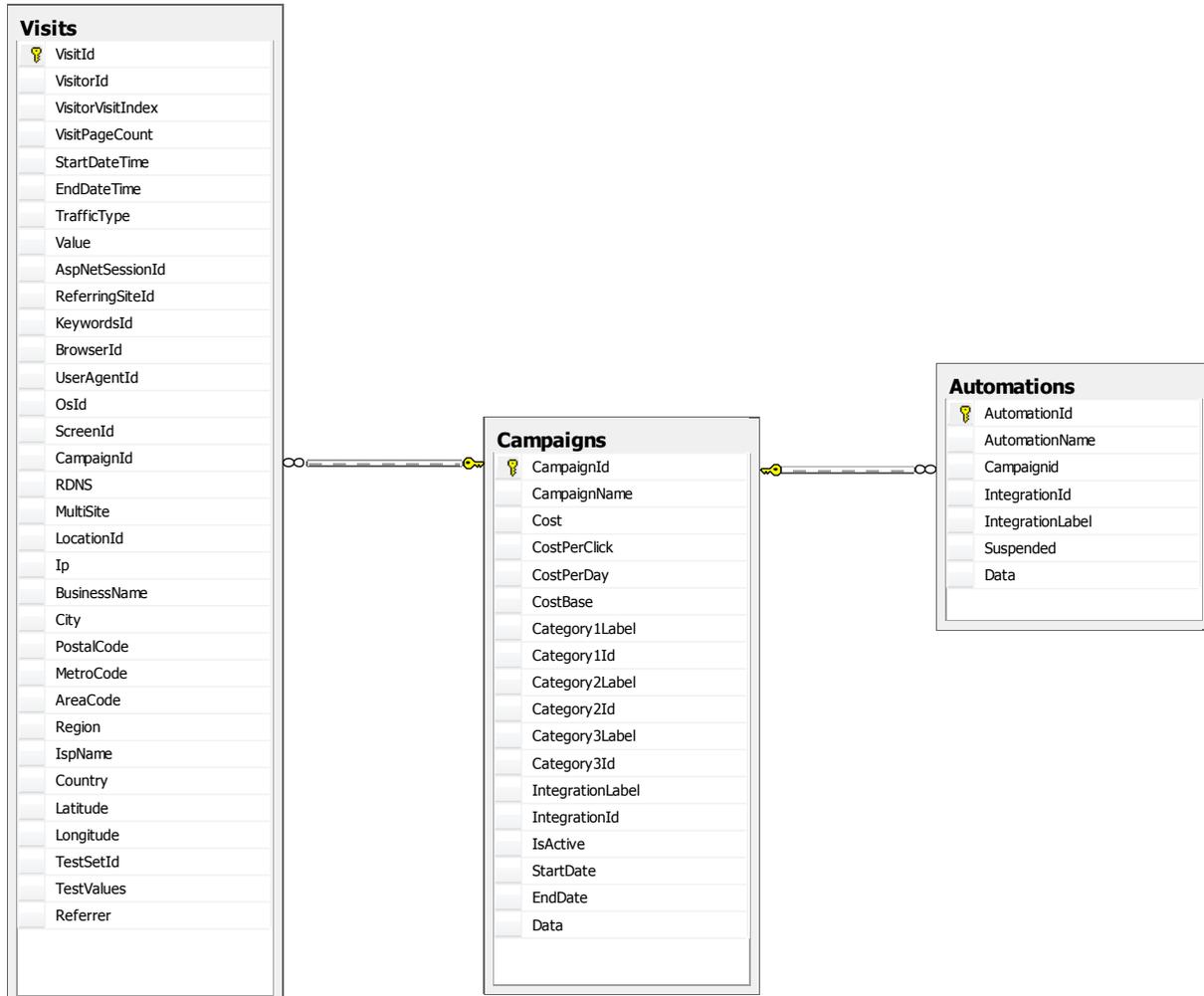


TestDefinitions テーブルは、これらのテーブルのそれぞれと、多対多の関係になることができます。

テストの組み合わせは、Visits、AutomationStates、および Pages テーブルの TestValues 列にバイト配列としてストアされます。

## 4.2.4 キャンペーン

マーケティング センターでキャンペーンを作成すると、キャンペーン、キャンペーン カテゴリ、および設定データがすべて、このテーブルにストアされます。このテーブルの CampaignId 列は、Sitecore データベースのキャンペーンに対応します。Campaigns テーブルは、Visits および Automations テーブルにも紐付けられています。



テーブルの関係:

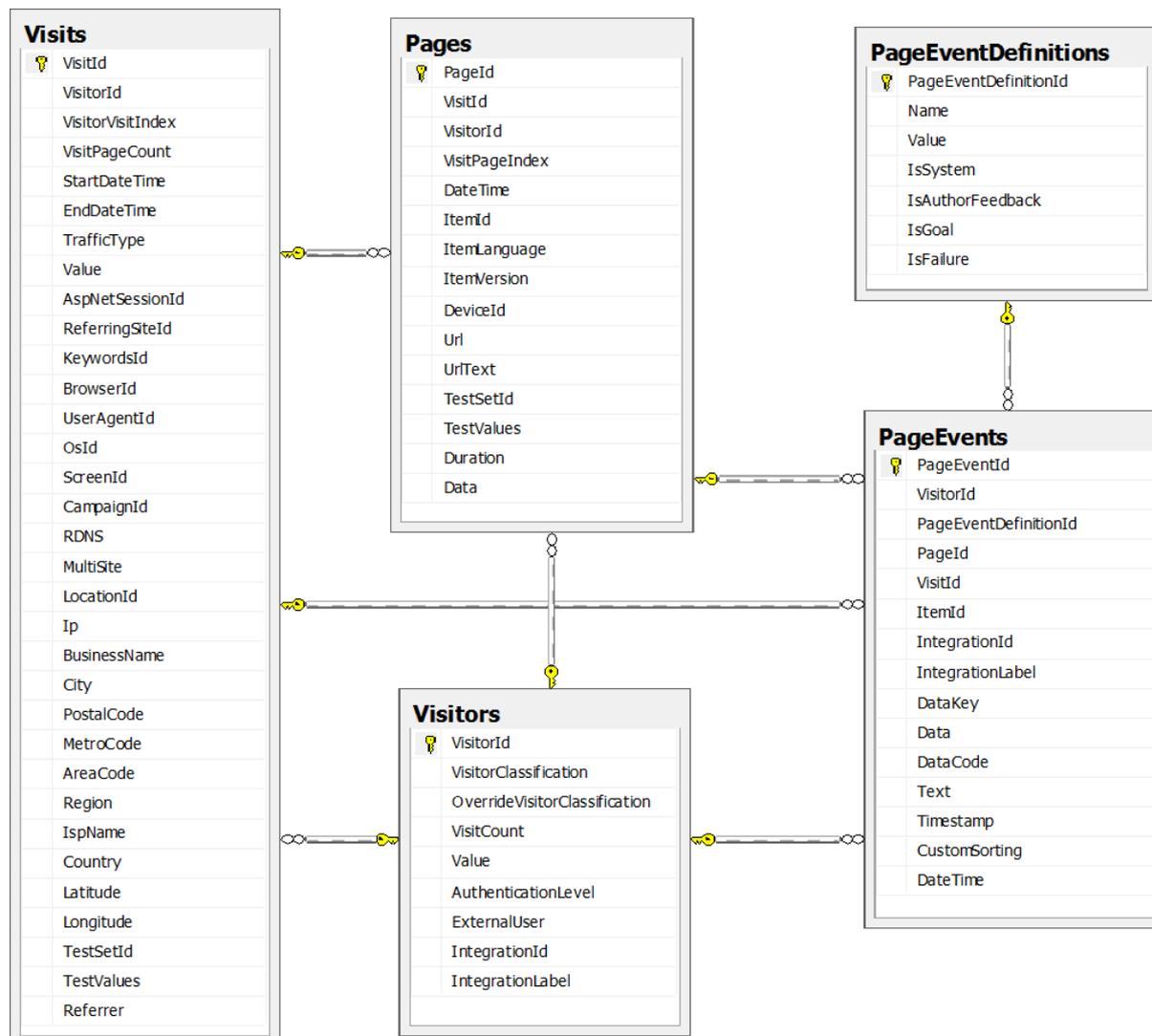
- Campaigns テーブルには、Visits テーブルとの間に 1 対多の関係があります。
- Campaigns テーブルには、Automations テーブルとの間に 1 対多の関係があります。

### メモ

標準キャンペーン レポートは、エグゼクティブ インサイト ダッシュボードのビューでのみ使用可能です。

## 4.2.5 ページ イベント

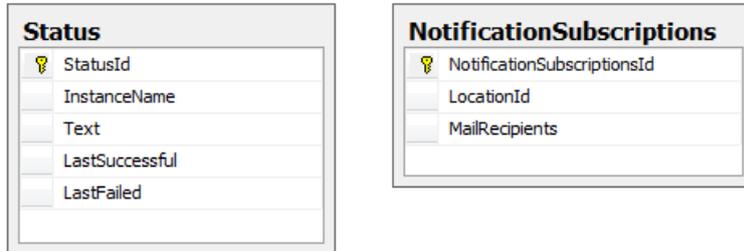
各訪問者セッションは、Pages テーブルにリンクされます。たとえば、Pages テーブルの列とフィールドで、各サイト訪問者のセッション追跡が作成されます。これは、Visit Detail レポートで表示できます。



テーブル	説明
Pages	各訪問で表示されたページの情報を記録して、Visits テーブルにリンクします。Pages テーブルは、Visits テーブルにもリンクします。
PageEvents	たとえば、Page Visited、Page Not Found、Campaign です。各ページ イベントは、PageId を使用して Pages テーブルにリンクします。
PageEventDefinitions	コンテンツ エディターで定義したページ イベントの設定情報すべてが含まれます。

## 4.2.6 システム情報

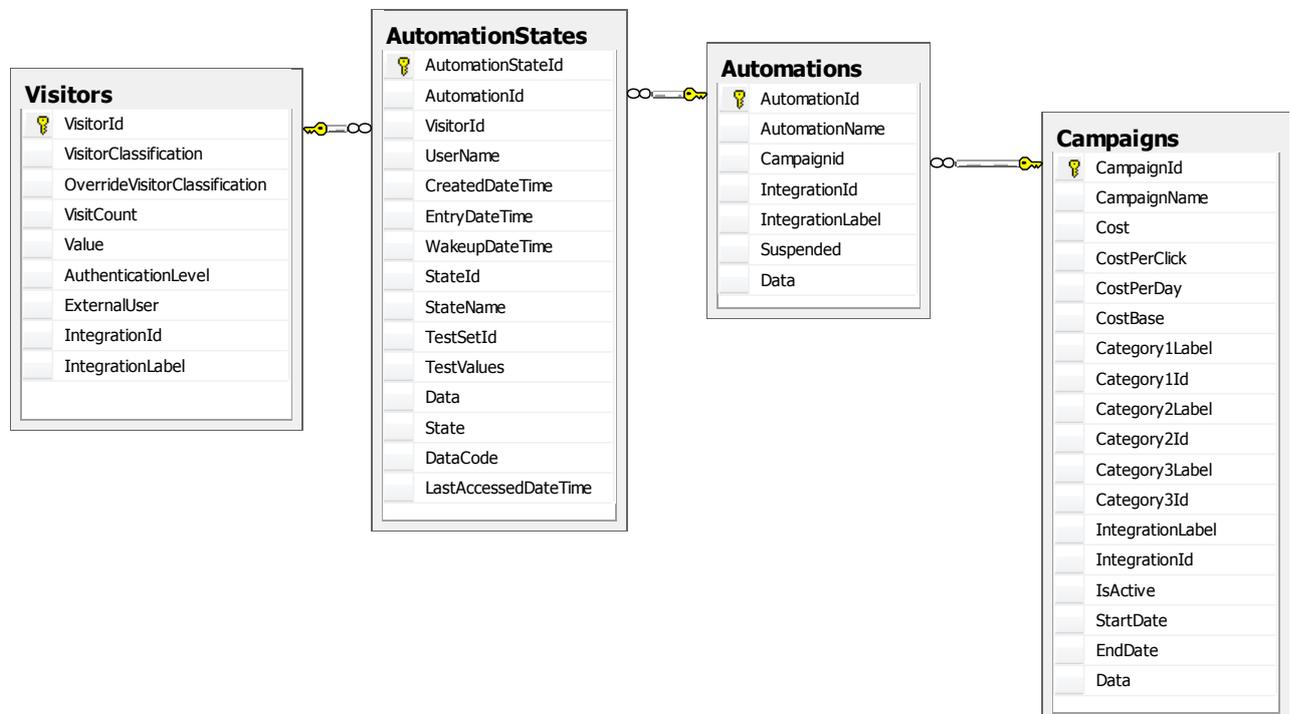
システム テーブルは、主に Sitecore 内部で使用されます。ただし、NotificationSubscriptions テーブルは、Top Leads by Activity レポートの作成に使用する SQL クエリでも使用されます。



テーブル	説明
Status	エラーをログに書き込むために使用されます。
NotificationSubscriptions	訪問者がレポートを購読するときに使用されます。

## 4.2.7 マーケティング自動化

マーケティング自動化を設定するためのテーブルです。Automation States テーブルは Visits、Visitors、および Profiles テーブルにリンクし、Automations テーブルは Campaigns テーブルにリンクします。



テーブル	説明
Automations	Automation States および Campaigns テーブルにリンクします。
AutomationStates	Visitors および Automations テーブルにリンクします。

テーブルの関係:

- Automations は Campaigns に紐付けられる場合があります、Campaigns テーブルには、Automations テーブルとの間に 1 対多の関係があります。
- AutomationStates は Visitors に紐付けられる場合があります、Visitors テーブルには、AutomationStates テーブルとの間に 1 対多の関係があります。

列	説明
AutomationId	Sitecore データベース内のエンゲージメント プラン アイテムの ID。 この列は、Automations および AutomationStates テーブルにあります。

## 4.3 SQL ビュー

SQL クエリ用の追加ビューをいくつか作成すると、Engagement Analytics レポートのパフォーマンスの向上に役立つ場合があります。次のセクションに、Engagement Analytics レポートで使用される標準ビューのリストを示します。

CampaignsOverview - 一定の期間にわたる、キャンペーンおよびキャンペーン カテゴリの訪問と値の分析。

列	説明
Date, Month	訪問が発生した日と月。
CampaignId	キャンペーンの ID。
CampaignName	キャンペーンの名前。
Category1Id, Category2Id, Category3Id	最初の 3 レベルのキャンペーン カテゴリの ID。各キャンペーンは、1 つのキャンペーン カテゴリに属します。
ItemId, Url	ランディング ページの ID と URL。
FirstVisit	新しい訪問者が再訪問者かどうか (新しい訪問者の訪問の場合 FirstVisit = 1)。
Keywords, KeywordsId	キャンペーンの検索に使用された検索キーワード (該当する場合)。

TrafficOverview - トラフィックの種類 (マーケティング チャンネル) の訪問と値の分析。

列	説明
Date, Month	訪問が発生した日と月。
TrafficType	トラフィックの種類 - サイト訪問者のセグメント化に使用した分類。Referred - Analyst または Search Engine - Organic などがあります。
Keywords, KeywordsId	訪問者が検索エンジンを使用してサイトにアクセスした場合の検索キーワード。
ReferringSite, ReferringSiteId	訪問者が別のインターネット リソースを使用してサイトにアクセスした場合の参照元サイト。
FirstVisit	新しい訪問者が再訪問者かどうか (新しい訪問者の訪問の場合 FirstVisit = 1)。
CampaignId	関連するキャンペーンの ID (該当する場合)。
ItemId, Url	訪問の最初のページの ID と URL。

ValueBySource - 最初の訪問のトラフィックの種類による訪問と値の分析。

列	説明
---	----

列	説明
Date	訪問者の最初の訪問の日付。
TrafficType	トラフィックの種類 - サイト訪問者のセグメント化に使用する分類。Referred - Analyst または Search Engine - Organic などがあります。
Visitors	この TrafficType で、この日に最初の訪問が発生した訪問者の数。
Visits	これらの訪問者による訪問の総数。
Value	これらの訪問者が獲得したエンゲージメント値。
FirstVisitValue	これらの訪問者が最初の訪問で獲得したエンゲージメント値。

VisitEventsByDefinition Searches - Goals、Asset Downloads、および Local Site の訪問と値の分析。

列	説明
Date, Month	訪問が発生した日と月。
TrafficType	訪問のトラフィックの種類。
CampaignId	訪問がキャンペーンから発生した場合のキャンペーン ID。
VisitId	訪問の ID。
PageEventDefinitionId	ページ イベントの ID。
PageEventDefinitionName	ページ イベントの名前 (Download など)。
Value	訪問で獲得された値。
IsGoal	ページ イベントが目標であることを示すチェック ボックス。
NumberOfEvents	この訪問での、この種類のページ イベントの数。
Date, Month	訪問が発生した日と月。

VisitEventsByPage - Page による Goals、Asset Downloads、および Local Site Searches の訪問と値の分析。

列	説明
Date, Month	訪問が発生した日と月。
TrafficType	訪問のトラフィックの種類。
CampaignId	訪問がキャンペーンから発生した場合のキャンペーン ID。
VisitId	訪問の ID。

列	説明
PageEventDefinitionId	ページ イベントの ID。
PageEventName	ページ イベントの名前 (Download など)。
ItemId	ページ イベントが発生したページ アイテムの ID。
Value	訪問で獲得された値。
IsGoal	ページ イベントが目標であることを示すチェック ボックス。
NumberOfEvents	この訪問での、この種類のページ イベントの数。
Date, Month	訪問が発生した日と月。

VisitEventsByDataKey - Data Key による Page Events の訪問と値の分析。Asset Downloads および Local Site Searches の分析に便利です。

列	説明
Date, Month	訪問が発生した日と月。
TrafficType	訪問のトラフィックの種類。
CampaignId	訪問がキャンペーンから発生した場合のキャンペーン ID。
VisitId	訪問の ID。
PageEventDefinitionId	ページ イベントの ID。
PageEventName	ページ イベントの名前 (Download など)。
DataKey	ページ イベントの DataKey フィールドの値。これは、Download の場合は資産へのパスに、Local Site Search の場合は検索文字列になります。
Value	訪問で獲得された値。
IsGoal	ページ イベントが目標であることを示すチェック ボックス。
NumberOfEvents	訪問での、この種類のページ イベントの数。

VisitorsByLocation - 企業活動の分析の基本ビュー (見込み顧客と活動のレポート)。事業部門で分類された、一定の期間中の一意の訪問者、訪問、獲得エンゲージメント値の数が含まれます。このビューを Visits テーブルおよび関連する属性テーブルと結合して、必要な属性を得ることができます。

列	説明
Date	訪問日。
VisitorClassification	企業の分類コード。
LocationId	Engagement Analytics での企業の ID。

列	説明
Country	企業が属する国。
Region	事業部門の地域。
VisitorId	訪問者の ID。
Visits	訪問数。
Value	この条件で獲得された合計値。

TrafficByDay - これは、毎日の集約訪問情報を含む内部ビューです。

TrafficOverview ビューは TrafficByDay に基づいています。

VisitEvents - すべてのセッションのページ イベント情報を含む内部ビュー。

VisitEventsByDefinition、VisitEventsByPage、および VisitEventsByDataKey も、このビューを使用します。このビューには、直接アクセスしないでください。

#### メモ

これらのビューは、コレクション データベースでは使用できません。

#### メモ

これらのビューを Visits テーブルまたは属性テーブルと結合して属性値を取得できますが、クエリのパフォーマンスを分析して、データベースに適切なインデックスを設定することを強くお勧めします。

## 第 5 章

# レポートの作成と変更

この章では、Sitecore レポートに簡単な変更を加える方法を説明します。シナリオを使用して、Sitecore および Stimulsoft Web Reports Designer を使用した新規レポートの作成方法とレポート テキストのローカライズ方法、および SQL クエリの変更方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- イン트로ダクション
- レポートの作成
- レポート テキストのローカライズ
- レポート SQL クエリの変更

### 注意

アナリティクス データベースをよく理解しており、SQL クエリの記述について詳しい知識がある場合は、自分用の Sitecore レポートを作成できます。確実に最適なパフォーマンスを得るための最善の方法は、SQL クエリを手動で記述して追加のビューを作成することです。サードパーティのツールを使用して SQL 文を生成すると、非効率的なクエリが作成され、レポートのパフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。

## 5.1 インTRODクシヨソ

Engagement Analytics では、次の 3 つのコンポーネントでレポートが構成されます。

- Sitecore レポート定義アイテム
- Sitecore SQL クエリ アイテム
- Stimulsoft .mrt レポート ファイル

Sitecore CMS および Stimulsoft Web Reports Designer を使用して、レポートを作成できます。

TopLeadsByValue.mrt などの一部のレポート ファイルは、複数のレポートで使用されます。たとえば、Engagement Analytics の Top Leads by Value レポートはすべて、TopLeadsByValue.mrt と呼ばれる 1 つのファイルに基づいています。このため、1 つのファイルへの変更が、複数のレポートに影響する場合があります。

こうした背景から、新しいレポートをゼロから作成するのではなく、既存のレポートの複製を作成して、この複製を編集することをお勧めします。

この方法には、既存のレポートを、不要な機能を取り除いて再利用できるというメリットがあります。

## 5.2 レポートの作成

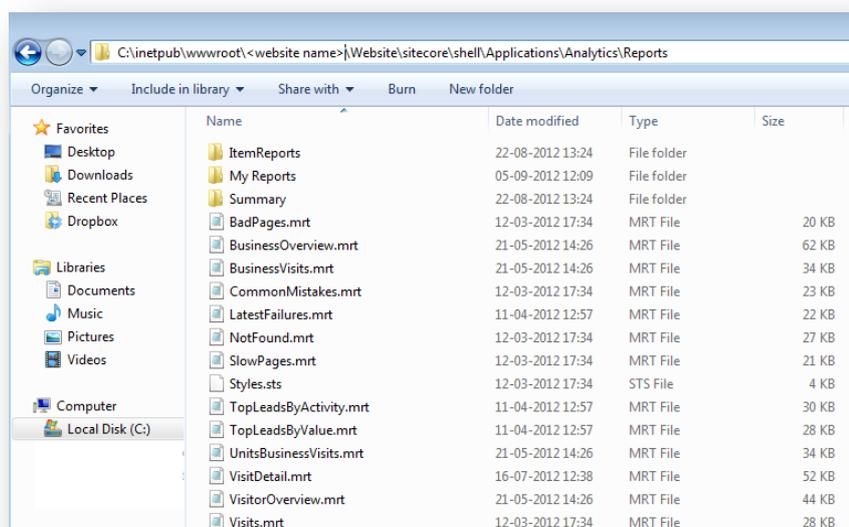
このセクションでは、既存のレポートと SQL クエリの複製を作成して、新規レポートを作成する手順の概要を示します。

### 5.2.1 既存の Stimulsoft レポート ファイルの複製

既存の Stimulsoft レポートの複製を作成する方法:

1. Web サイト フォルダー構造で、すべてのレポート定義 (.mrt) ファイルを含むフォルダーに移動します。

Website¥sitecore¥shell¥Applications¥Analytics¥Reports



メモ

「My Reports」という名前のフォルダーを作成して、作成した新しいレポートを保存することができます。

2. 既存のレポートをコピーします。たとえば、Visits.mrt をコピーし、My Reports フォルダーに保存して、Test report.mrt という名前に変更します。
3. 変更を保存します。

### 5.2.2 レポート定義アイテムの複製

既存のレポート定義アイテムの複製を作成する方法:

1. コンテンツ エディターで、Stimulsoft レポート定義アイテムに移動します。

/sitecore/system/Settings/Analytics/Reports/Reports/Recent Activity

2. 既存のレポート定義アイテムの複製を作成します。この例では、Latest Visits を複製します。このレポートを複製するには、アイテムを右クリックし、[複製] をクリックします。

3. 複製したアイテムの名前に「Test report」と入力します。
4. [ファイル名] フィールドで、複製した .mrt ファイルへのパスを入力します。パスを入力するには、元のレポート定義アイテムのパスをコピーして編集します。
5. [レポート タイトル] フィールドに名前を入力し、必要に応じて説明を追加します。

例:



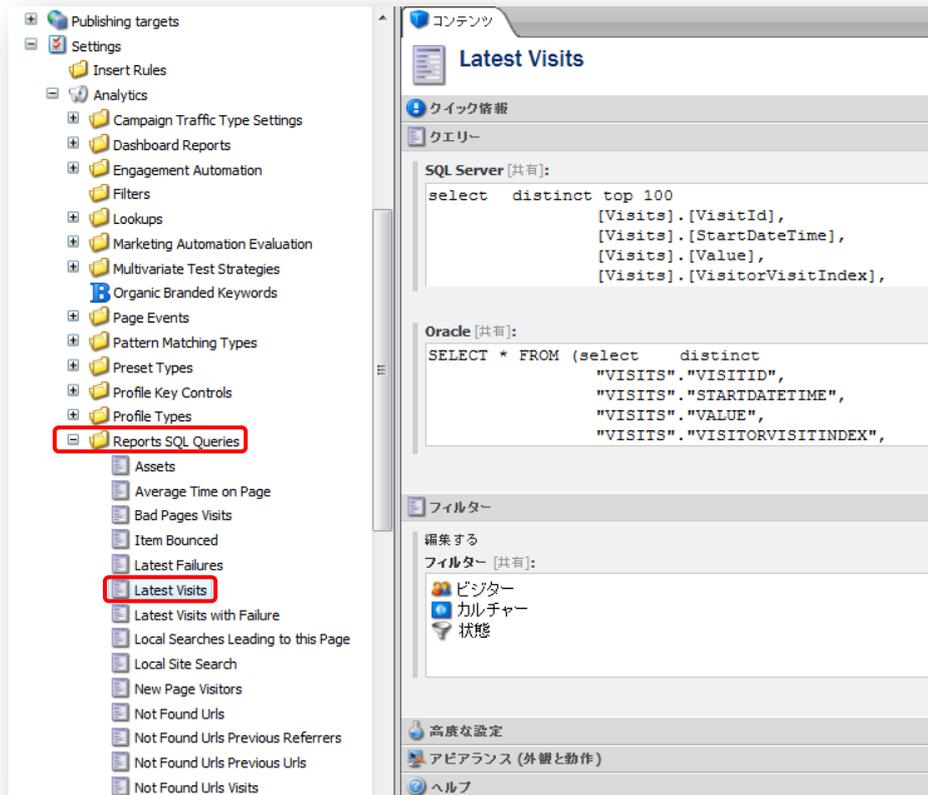
6. 変更を保存します。

### 5.2.3 SQL クエリ アイテムの複製

レポートに関連づけられた SQL クエリに変更を加える場合は、レポート クエリ アイテムも複製する必要があります。クエリを複製することで、元のクエリ アイテムを上書きしてしまうことはありません。

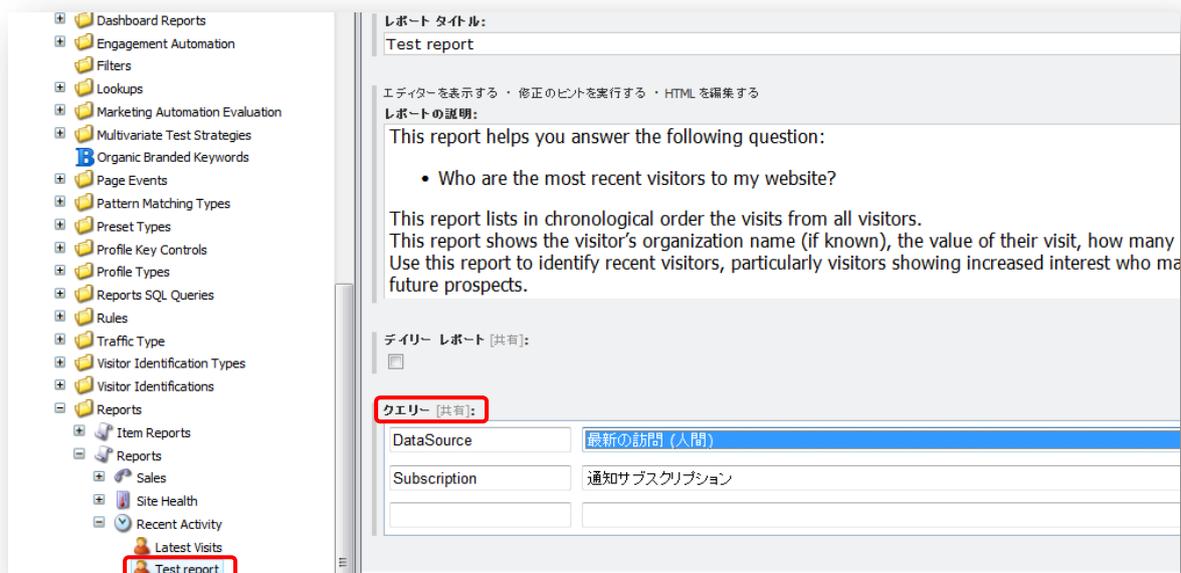
Sitecore SQL クエリ アイテムを複製する方法:

1. コンテンツ エディターで、複製したレポート「Test report」を選択します。  
/sitecore/system/Settings/Analytics/Reports/Reports/Recent Activity/Test report
2. [データ] セクションの [クエリ] フィールドで、レポートにリンクされているクエリを確認できます。
  - Latest Visits
  - Notification Subscription
3. 次のパスを使用して、SQL クエリ フォルダーに移動します。  
/sitecore/system/Settings/Analytics/Reports SQL Queries
4. 最初に、クエリ アイテムの Latest Visits を選択します。アイテムを右クリックし、[複製] をクリックします。



5. デフォルト名の「Copy of Latest Visits」のままにします。
6. 2 つ目のクエリ、Notification Subscription についても同様に複製します。
7. 変更を保存します。
8. 複製したレポート アイテム「Test report」を選択します。
9. [データ] セクションの [クエリ] フィールドで、ドロップダウン リストを使用して、作成した複製済みクエリにリンクします。
  - Copy of Latest Visits
  - Copy of Notification Subscription

[クエリ] ドロップダウン リストで Copy of Latest Visits を選択します。



10. 変更を保存します。

## メモ

それぞれの Sitecore SQL クエリには、1 つ以上のデータ ソースが含まれます。この例のレポートには、*DataSource* と *Subscription* という 2 つのデータ ソースがあります。データ ソースは、SQL クエリを使用して、Analytics データベースから列を取得します。

データ ソースの詳細については、「**Error! Reference source not found.**」を参照してください。

### 5.2.4 複製したレポートを開く

複製したレポートをテストするには、Engagement Analytics でレポートを開き、Stimulsoft Web Designer を開きます。複製したレポートを開くには、次の手順を実行します。

1. Engagement Analytics を開き、複製済みレポートが表示されるまでレポート ツリーを展開します。
2. 複製済みレポートをクリックします。



3. この複製済みレポートを Web Designer で開くには、[デザイン] をクリックします。



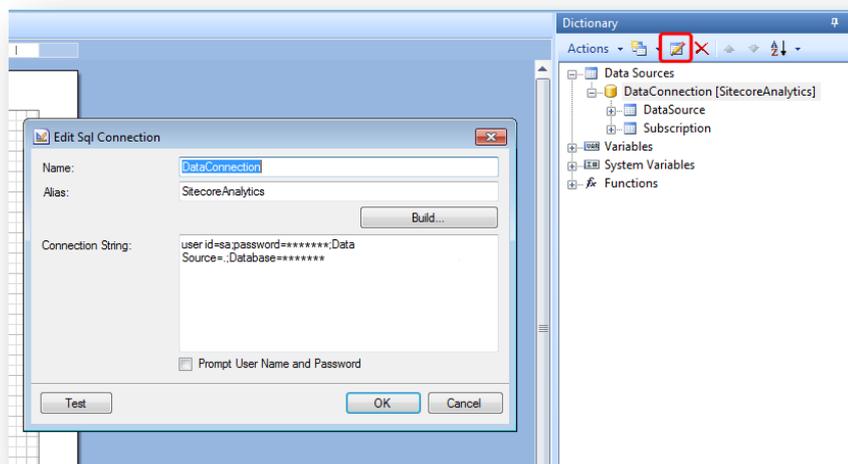
4. Web Designer では、他のレポートを一切上書きせずに、このレポートで使用するレイアウトやデータを変更できます。

## 5.2.5 接続文字列の追加

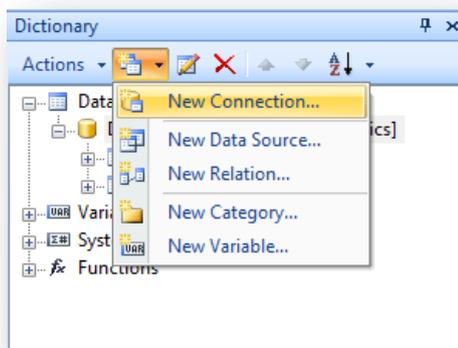
レポート定義アイテムと Stimulsoft .mrt ファイルの複製後に、接続文字列をそのままにすることも、接続文字列を編集して別の Analytics データベースに接続することもできます。

アナリティクス データベースに接続する方法:

1. Stimulsoft Web Reports Designer で新しいレポートを開きます。
2. 既存の SQL 接続文字列を表示するか、新しい接続を作成するために、レポートの右側の [ディクショナリ] パネルを開きます。このパネルが表示されない場合は、Web Reports Designer のレポート リボンで [表示]、[パネル] の順にクリックしてから、[ディクショナリ] をクリックします。
3. [ディクショナリ] パネルで、**DataConnection** をクリックしてから、[編集] をクリックします。



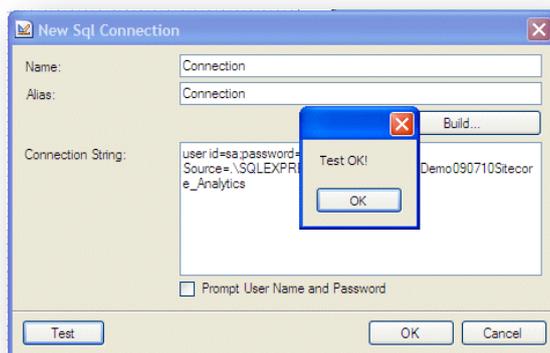
4. 新しいデータ接続を追加するには、[新規アイテム] をクリックしてから、[新規接続] をドロップダウン リストから選択します。



5. 次のフォーマットで接続文字列を入力します。

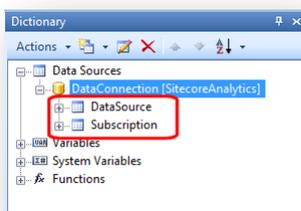
```
user id=<ユーザー名>;password=<パスワード>
;Data Source=<データ ソース名>
;Database=<データ ベース名>
```

6. [テスト] をクリックして、接続をテストします。



## 5.2.6 データソースの追加

レポートを作成してアナリティクス データベースに接続した後の次の手順は、データソースの設定です。[ディクショナリ] パネルには、各データソースがデータ接続ノードの下に表示されます。



データ ソースは SQL クエリを使用して、アナリティクス データベースから列を取得します。データ ソースを使用して、レポート レイアウトに表示するデータを抽出します。

データ ソースには自分で名前を付けることができ、SQL クエリ内では、わかりやすいエイリアスを列名として使用できます。

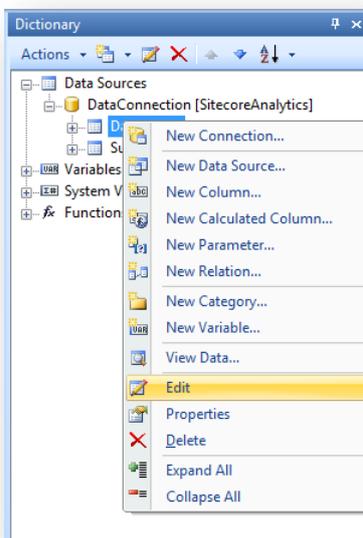
Engagement Analytics の標準レポートを調べると、各レポートには、1 つまたは複数のデータ ソースが含まれていることがわかります。

## メモ

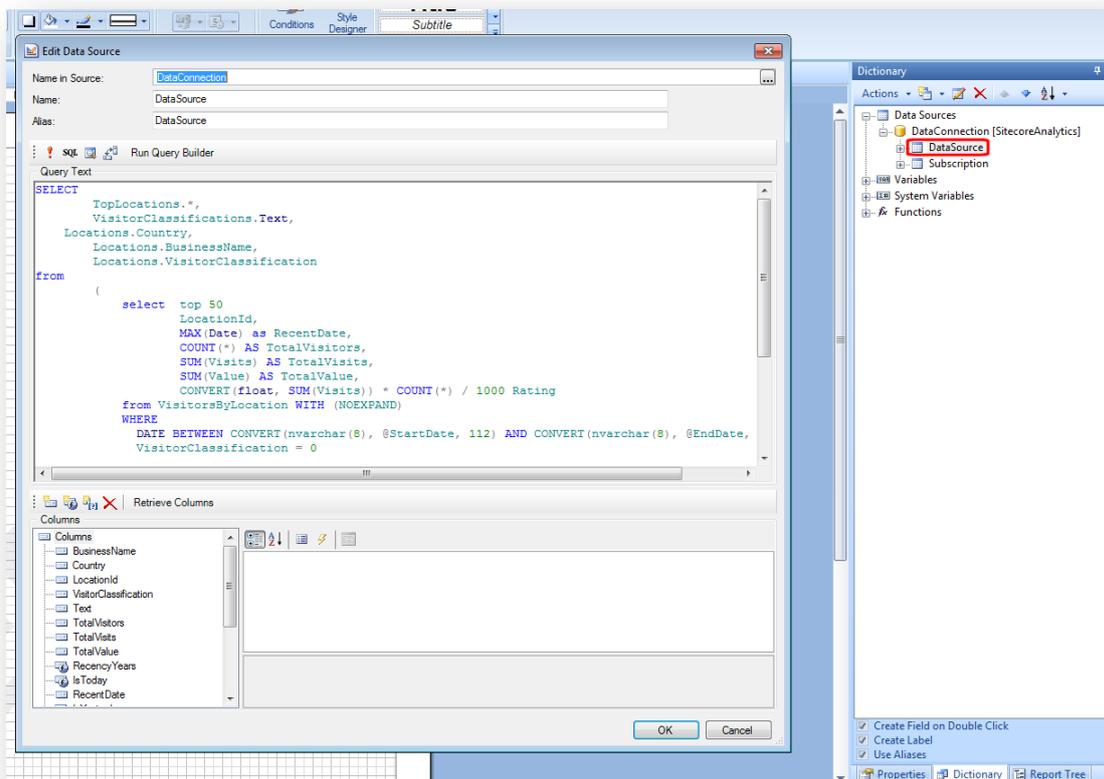
Web Reports Designer で各データ ソースの SQL クエリを作成した後、各クエリを Sitecore コンテンツ ツリーに移動する必要があります。これにより、レポートの全体的なパフォーマンスを向上させることができます。

## Windows Designer での SQL クエリの表示

Windows Designer で、データ ソースを右クリックして [編集] をクリックすると、SQL クエリが表示されます。



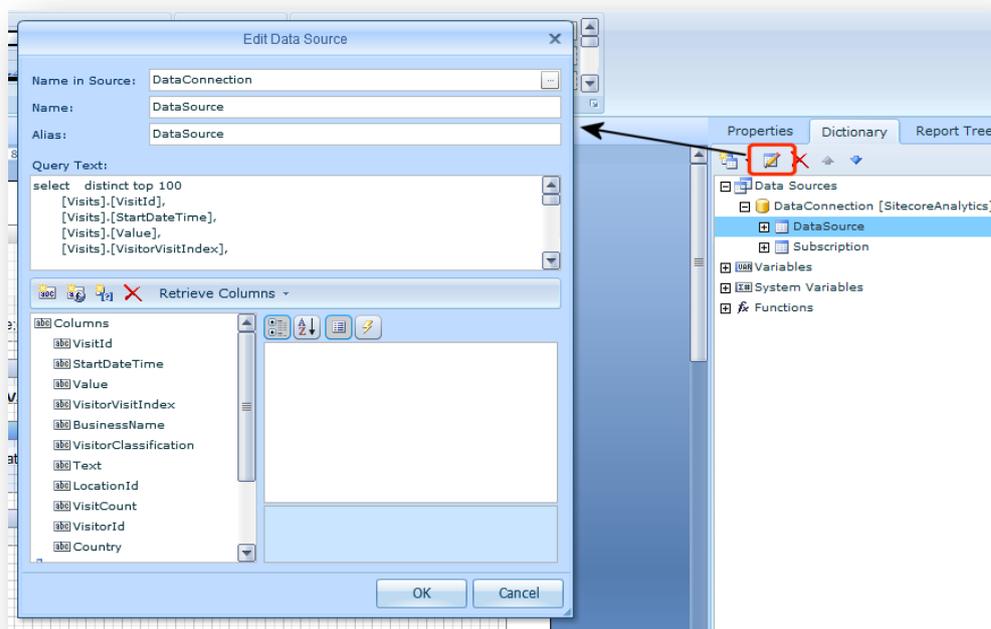
SQL クエリと、データベースから返された列が [データソースの編集] ウィンドウに表示されます。



このウィンドウで、独自のクエリを作成できます。Query Builder を使用すると、列をドラッグ アンド ドロップして SQL クエリを作成できます。これで、正しい SQL 構文が作成されますが、パフォーマンスを向上させるために、後でクエリを最適化することが必要な場合もあります。

## Web Designer での SQL クエリの表示

Web Designer でデータソースを選択し、ツールバーで **[編集]**  をクリックすると、SQL クエリが表示されます。



Web Designer は、コンピューターへの負荷が軽いバージョンの **[データソース編集]** ウィンドウを使用しています。

### メモ

Query Builder は、Web Designer では使用できません。

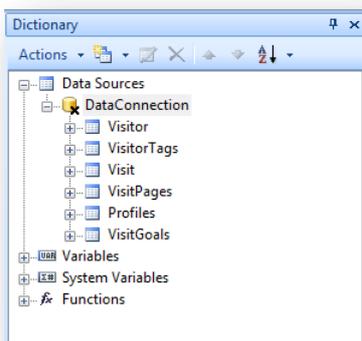
## 5.2.7 SQL クエリの作成

アナリティクス データベースから正しいデータを取得してレポートに表示するには、SQL クエリを作成する必要があります。Engagement Analytics レポートの SQL クエリはすべて、個別の Sitecore コンテンツ アイテムに含まれています。また、各クエリは、パフォーマンスを向上させるために最適化されており、一部のクエリは追加のビューとインデックスを使用します。

## Web Reports Designer での SQL クエリのテスト

新しいレポートをゼロから作成したときは、Stimulsoft Web Reports Designer で SQL クエリをテストすると確実です。SQL クエリは、手動でコーディングするか、Query Builder や SQL Server Management Studio などの専用ツールを使用して作成できます。レポートに追加するデータソースごとに、個別のクエリを作成してください。

たとえば、Visit Detail レポートは、複数のデータ ソースで構成されており、各データ ソースは個別の SQL クエリを使用します。

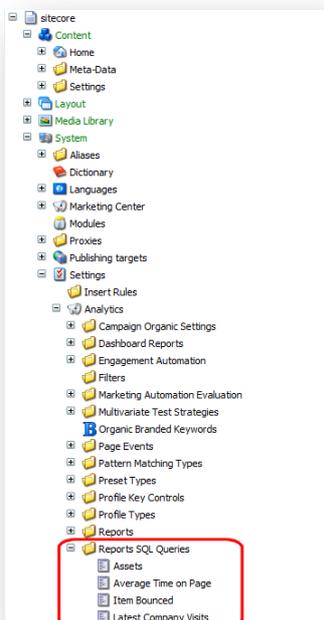


この例では、すべての標準 Engagement Analytics レポートと同様に、SQL クエリが Sitecore コンテンツ ツリーに移動されています。

別のツールを使用して SQL クエリを作成した場合は、最初に、新しいデータ ソースを作成してから、コピーした SQL クエリをそのデータ ソースに貼り付けます。[データ ソースの編集] ウィンドウで [列を取得] をクリックします。クエリにエラーがある場合は、返された列が表示され、エラー メッセージも表示されます。

## 5.2.8 Sitecore アイテムへの SQL クエリの移動

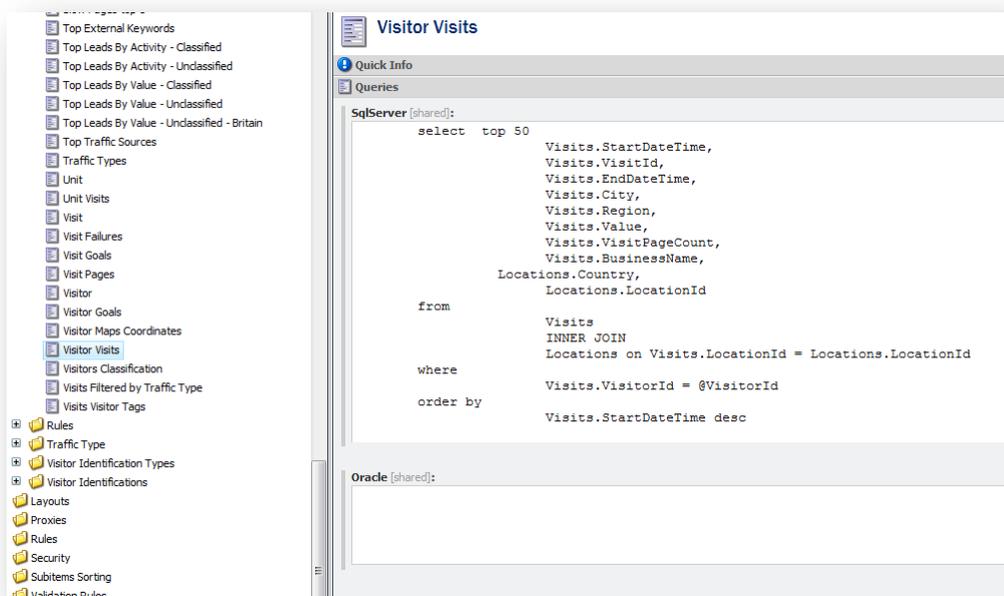
Engagement Analytics では、すべての SQL クエリは Sitecore コンテンツ ツリーにストアされます。



クエリごとに新しいコンテンツ アイテムを作成すると、パフォーマンスが向上し、クエリが再利用可能になり、新しい SQL クエリを追加しやすくなります。各 ReportQuery アイテムには、SQL または Oracle クエリを追加するためのフィールドが含まれます。

新しいレポート クエリ アイテムをコンテンツ ツリーに追加する方法:

1. 次の Reports SQL Queries フォルダーを選択します。  
/sitecore/system/Settings/Analytics/Reports SQL Queries
2. リボンで、**Report Query** テンプレートを挿入オプションに追加します。
3. **Report Query** テンプレートに基づいて、新しいアイテムを作成します。
4. この **Report Query** アイテムに名前を付けます。たとえば、「Visitor Visits」という名前を付けます。
5. 新しいレポート クエリ アイテムを選択して、**SQL Server** フィールドにクエリを平文で入力します。



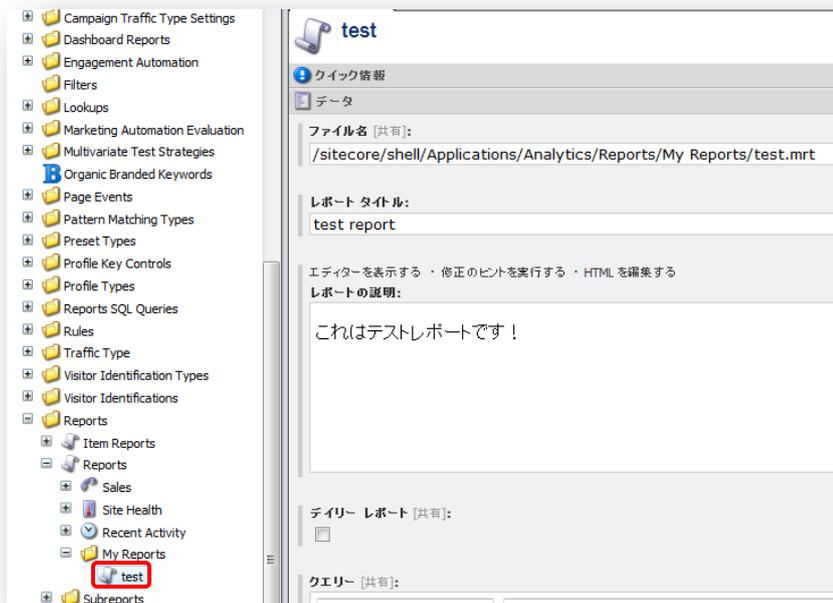
6. リボンで、**[保存]** をクリックします。

## 5.2.9 レポート定義アイテムの設定

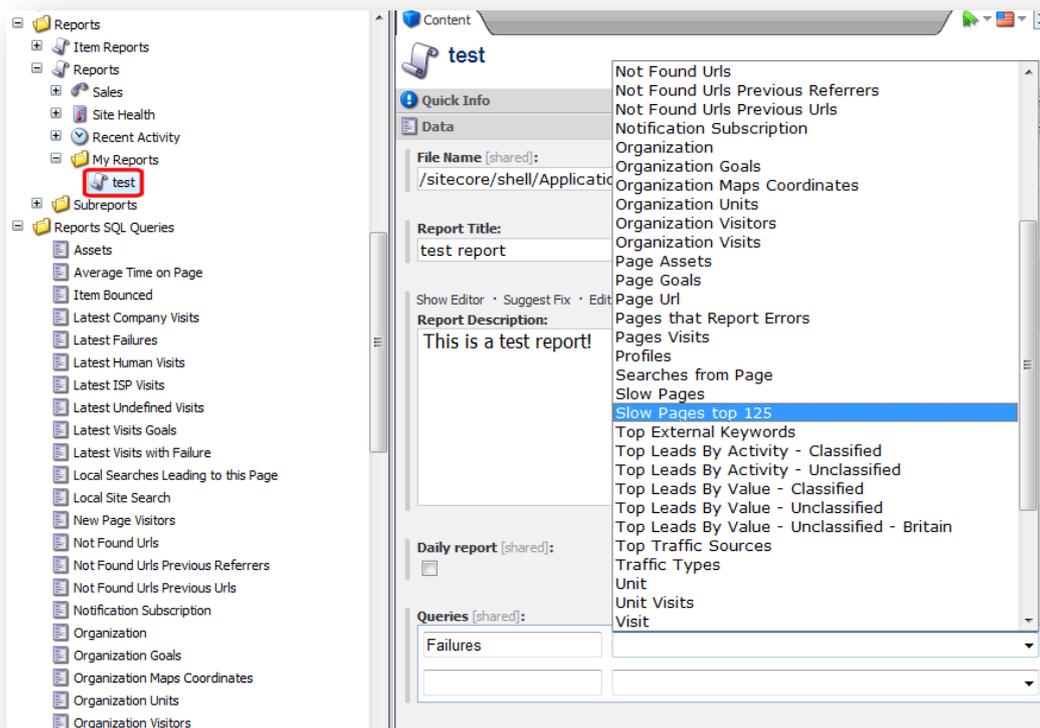
SQL クエリをレポートにバインドするには、コンテンツ ツリーでクエリを選択して、それをレポート定義アイテムにバインドする必要があります。

レポート定義アイテムにクエリをバインドする方法:

1. レポート定義アイテムを選択します。



2. 下へスクロールして、データ ソース名を **Queries** フィールドに入力します。たとえば、「Failures」というデータ ソース名を入力します。
3. ドロップダウン リストで SQL クエリを選択します。たとえば、Slow Pages top 125 を選択します。



これで、レポート定義アイテムが SQL クエリにバインドされます。必要に応じて、さらにクエリをレポートに追加します。

4. リボンで、**[保存]** をクリックします。

## 5.2.10 レポート レイアウトの作成

すべてのデータ ソースを設定し終わったら、Stimulsoft Web Reports Designer を使用して、レポートのレイアウトを作成できます。

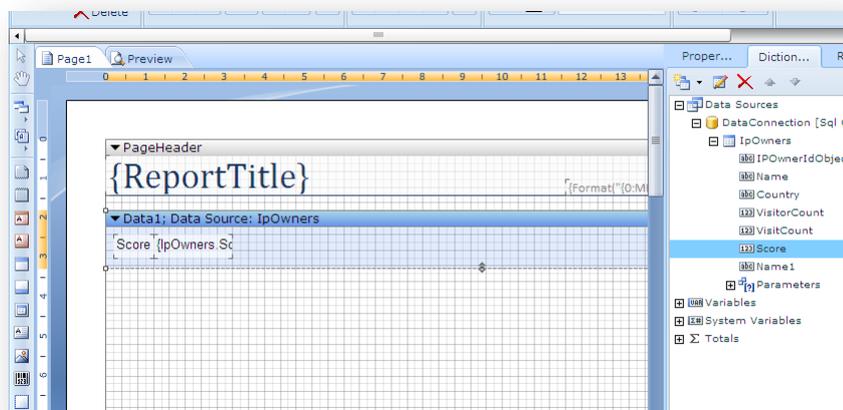
レポート レイアウトを作成するには、次の手順を実行します。

- 最初のレポート レイアウトを作成する
- テキスト変数を作成して、列見出しのフォーマットを設定する
- レポートのヘッダーを追加して、テキストのフォーマットを設定する
- イメージを追加する - オプションの手順
- ハイパーリンクを追加する - オプションの手順

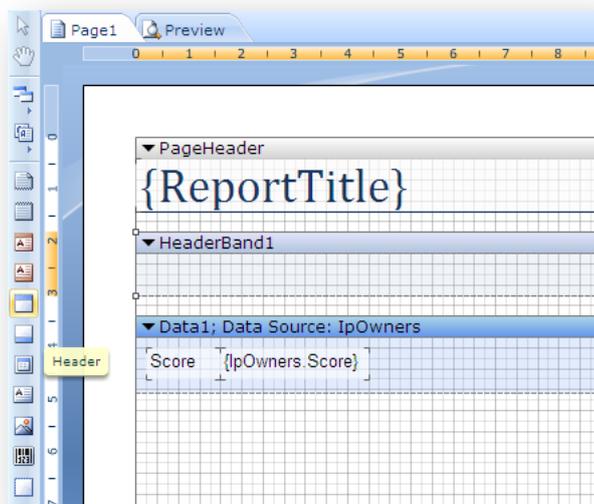
### レポート レイアウトへのデータの追加

既存のレポートを再利用している場合は、最初に、既存のデータ帯にあるテキスト ボックスをすべて削除します。これを行うには、テキスト ボックスを選択して、リボンの **[削除]** をクリックします。レポート タイトル ヘッダーを保持したまま、新しい列をデータ帯に追加することができます。

1. レポートにコンテンツを追加するには、必要な列を [ディクショナリ] パネルからデータ帯にドラッグ アンド ドロップします。
2. [ディクショナリ] パネルで列を選択して、レポートのデータ帯にドラッグします。

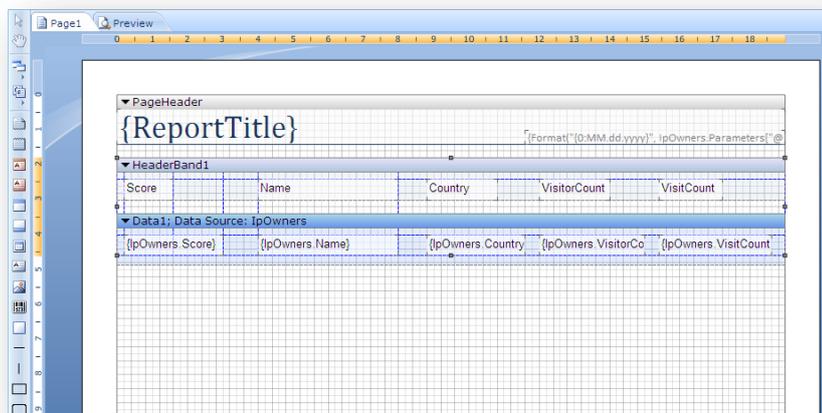


3. これで、2 つのテキスト ボックス (**Score** と **IpOwners**) が追加されました。マウスをテキスト ボックスに合わせて表示される矢印を使用して、これらのサイズを変更します。
4. レポート デザイナーのツールボックスで、[ヘッダー] をクリックして、新しいヘッダーをレポートにドラッグします。ページ ヘッダーとデータ帯の間に挿入します。



5. [**Score**] テキスト ボックスをヘッダー帯に移動します。これが、列見出しです。[**IpOwners**] はデータ帯に残り、この列のデータを出力します。

6. Name、Country、Visitor Count、および Visit Count を同じ方法で追加します。レイアウトは次のようになります。

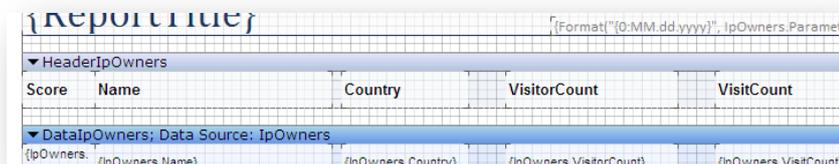


7. Stimulsoft の [ファイル] メニューで [レポートを保存] をクリックします。  
8. レポートをプレビューします。

## 列見出しのフォーマット設定

すべての列の見出しを太字に設定する方法:

1. SHIFT キーを押して、各ヘッダー テキスト ボックスをクリックします。
2. すべての列見出しを選択し終わったら、レポート デザイナーのリボンで [太字] をクリックします。
3. [レポートを保存] をクリックします。



## レポート データのグループ化

訪問者の企業と国をまとめてハイパーリンクで表示する方法:

1. {IpOwners.Name} などのテキスト ボックスをダブルクリックして、テキスト エディターの [式] タブをクリックします。  
IpOwners はデータ ソースを表し、Name は、表示する列を表します。
2. 次の式を入力します。  
{IpOwners.Name}, {IpOwners.Country}  
この式で、企業名と国がまとめてハイパーリンクとして表示されます。

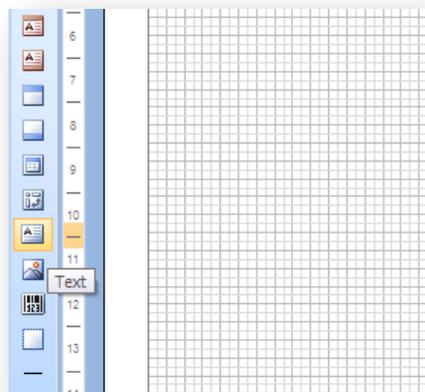


これで、ヘッダーとデータ帯から [Country] テキスト ボックスを削除できます。

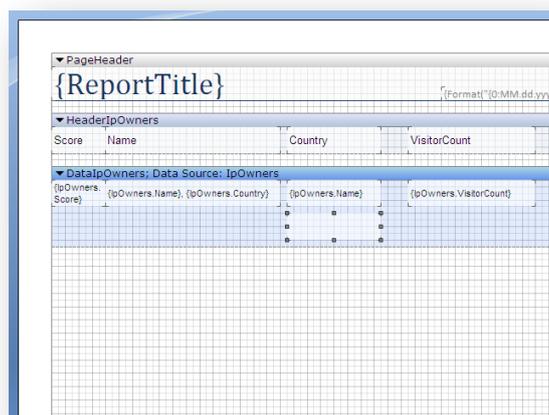
## 下位見出しのグループ化

各企業名の下でセッションと訪問者の数をグループ化する方法:

1. データ帯を選択してから、ツールボックスでテキスト ボックスを選択し、これをツールボックスからドラッグ アンド ドロップします。



テキスト ボックスを直接、[{IPOwners.Name}] テキスト ボックスに配置します。



2. 新しいテキスト ボックスをダブルクリックします。次の式をコピーして [式エディター] ウィンドウに貼り付けます。  
`{IPOwners.VisitCount} session{IPOwners.VisitCount == 1 ? "" : "s"},`  
`{IPOwners.VisitorCount} visitor{IPOwners.VisitorCount == 1 ? "" : "s"}`  
 この式により、**Visitor Count** と **Visit Count** が一緒に企業名の下に表示されます。また、「session」と「visitor」という用語が、セッションまたは訪問者の数に応じて、単数形または複数形で表示されます。この式は、C# に非常によく似た構文で記述されます。

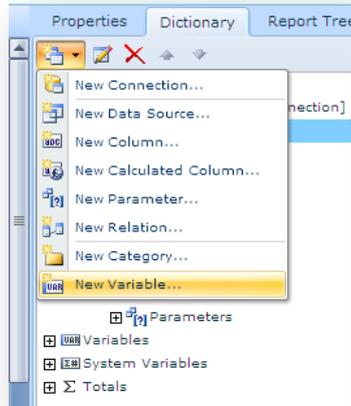


3. これで、Visit Count と Visitor Count のテキスト ボックスはすべて不要となるため、ヘッダーとデータ帯から削除されます。

## レポート ヘッダーの追加

レポートには、すでにレポート ヘッダーがあります。新しいヘッダーを作成する必要がある場合は、次の手順に従います。

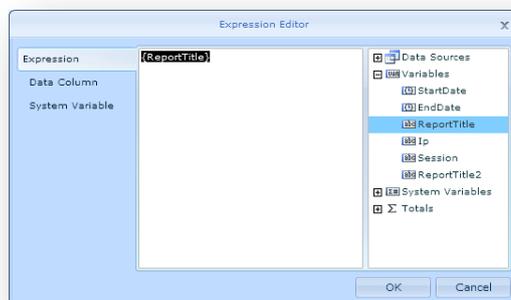
1. [データ ディクショナリ] で [新規アイテム] をクリックし、次に [新規変数] をクリックします。



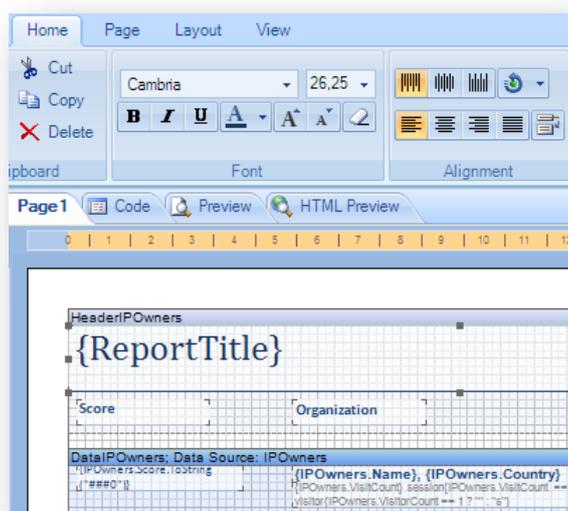
2. [新規変数] ウィンドウの [名前] および [エイリアス] フィールドに「ReportTitle」と入力します。
3. [種類] フィールドで、「string」を選択して [OK] をクリックします。



4. レポート ヘッダー帯にテキスト ボックスを追加します。
5. テキスト ボックスをダブルクリックして式エディターを開きます。
6. [式エディター] ウィンドウで、作成した ReportTitle 変数を [式] タブにドラッグ アンド ドロップします。
7. [OK] をクリックします。



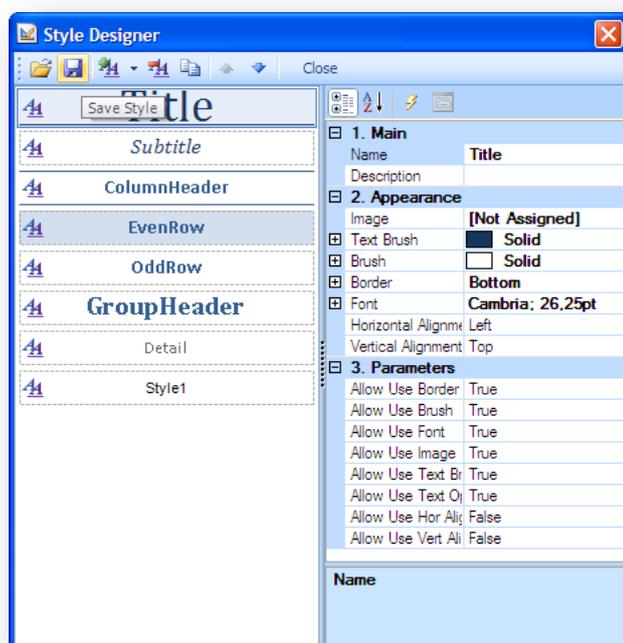
テキスト ボックスを左揃えにすると、レポート タイトルが次のように表示されます。



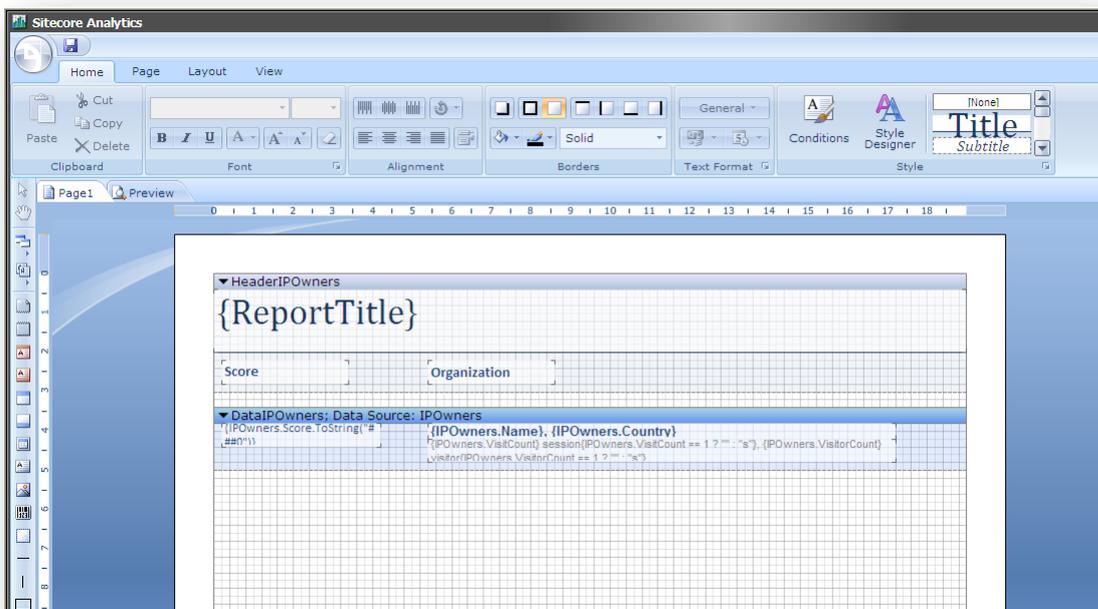
## メモ

他の Sitecore レポートと同じフォーマットをテキストに設定するには、別の Sitecore レポートから同じスタイルをインポートする必要があります。

スタイル デザイナーを使用すると、スタイルをローカルに保存したり、他の保存済みスタイルをインポートしたりすることができます。



作成し終わったレポート レイアウトは、次のようになります。



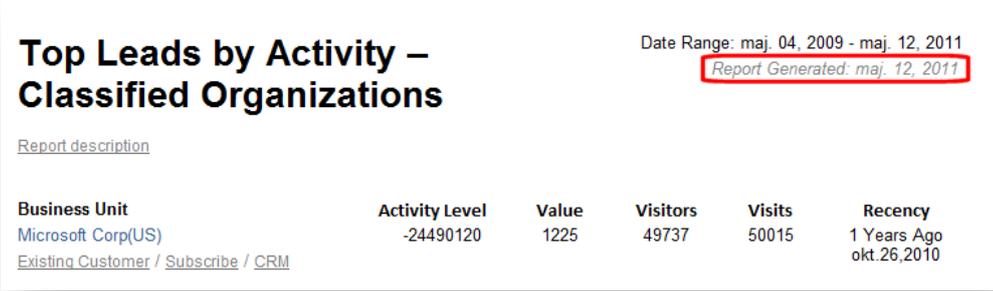
8. レポートをプレビューします。

## 5.3 レポート テキストのローカライズ

レポート レイアウトにテキストを追加するときに、テキスト変数を作成して、レポートを他の言語に翻訳することもできます。このシナリオでは、新しいテキスト変数を作成して、すべての Engagement Analytics レポートに表示される静的な [Report Generated] テキスト ボックスと置き換えます。この変数と、他のすべてのローカライズ済みテキスト変数は、レポートのデนมマーク語版を選択すると、デนมマーク語で表示されます。

ローカライズ済みテキスト変数を作成する方法:

1. ローカライズする既存のテキスト アイテムを選択します。たとえば、「ReportGenerated」というアイテムをクリックします。



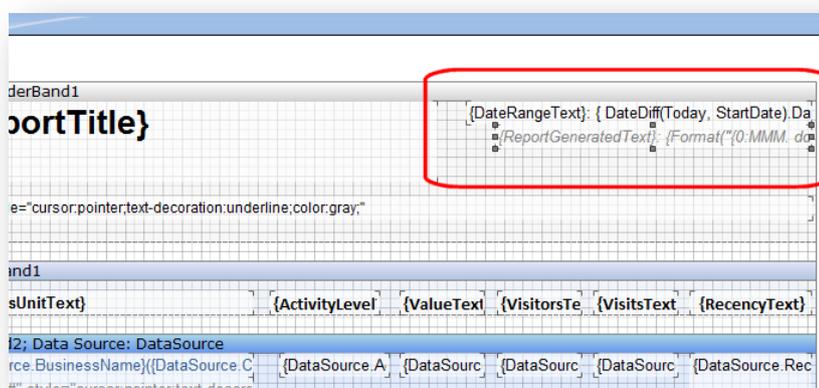
**Top Leads by Activity – Classified Organizations** Date Range: maj. 04, 2009 - maj. 12, 2011  
**Report Generated: maj. 12, 2011**

[Report description](#)

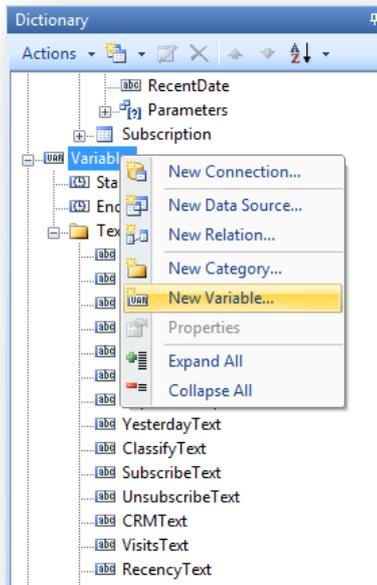
Business Unit	Activity Level	Value	Visitors	Visits	Recency
Microsoft Corp(US)	-24490120	1225	49737	50015	1 Years Ago okt. 26, 2010

[Existing Customer](#) / [Subscribe](#) / [CRM](#)

Stimulsoft Web Reports Designer で、この静的なテキスト ボックスを選択します。



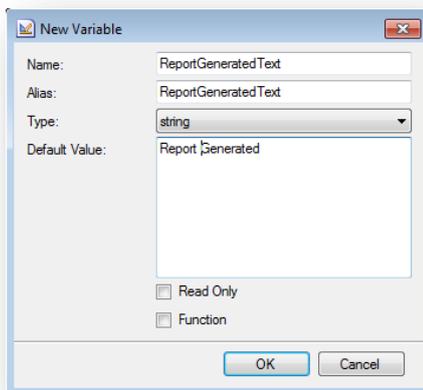
2. [ディクショナリ] パネルで、新しい変数を作成します。



3. この変数を右クリックして [編集] をクリックします。
4. [新規変数] ダイアログ ボックスで、次の値を入力します。

フィールド	値
名前	<i>ReportGeneratedText</i>
エイリアス	<i>ReportGeneratedText</i>
種類	<i>string</i>
デフォルト値	<i>Report Generated</i>

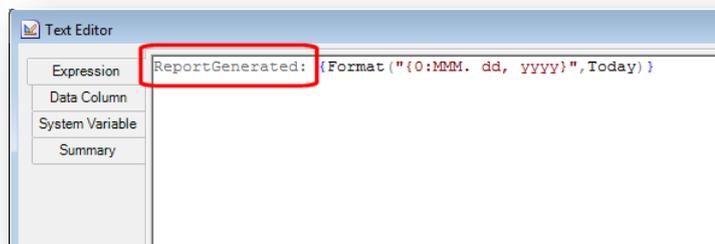
[新規変数] ダイアログ ボックス:



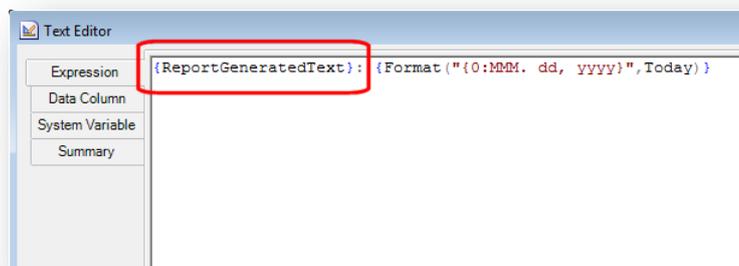
5. [OK] をクリックして、新しい変数を保存します。

6. レポートの本文で、既存の [Report Generated] テキスト ボックスを選択してダブルクリックし、[テキスト エディター] ウィンドウを開きます。
7. [テキスト エディター] ウィンドウで静的テキスト「ReportGenerated」を「ReportGeneratedText」に置き換えて、新しいローカライズ済み変数の名前に合わせます。

静的なレポート テキスト:



ローカライズされたレポート テキスト:



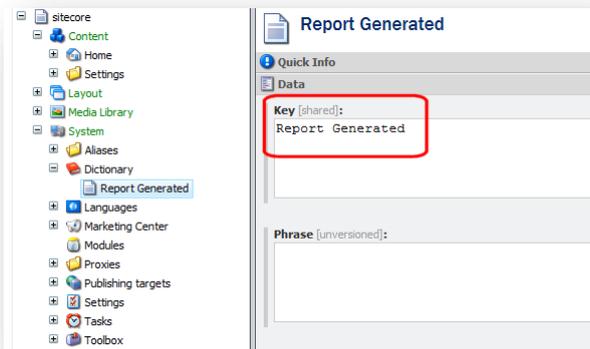
8. [OK] をクリックします。

Engagement Analytics での次回のレポート実行時には、テキスト「ReportGeneratedText」のデフォルト値がローカライズされています。

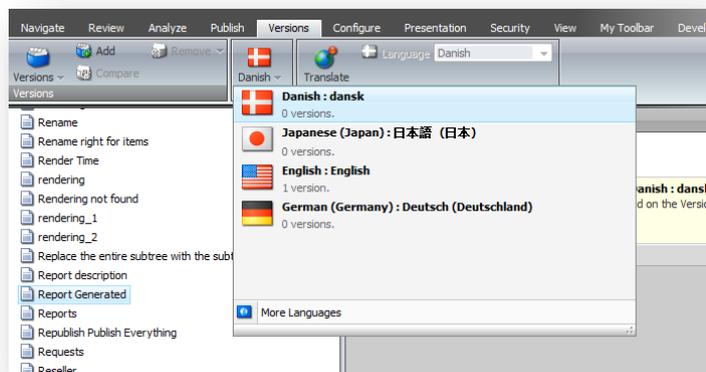
ローカライズ済みテキスト変数をテストする方法:

1. Sitecore デスクトップで Core データベースに切り替えます。
2. コンテンツ エディターで、新しいディクショナリ エントリ アイテムを作成します。コンテンツ ツリーで、次のものに移動します。  
`/sitecore/system/Dictionary/R`
3. 「Report Generated」という新しいディクショナリ エントリを追加します。

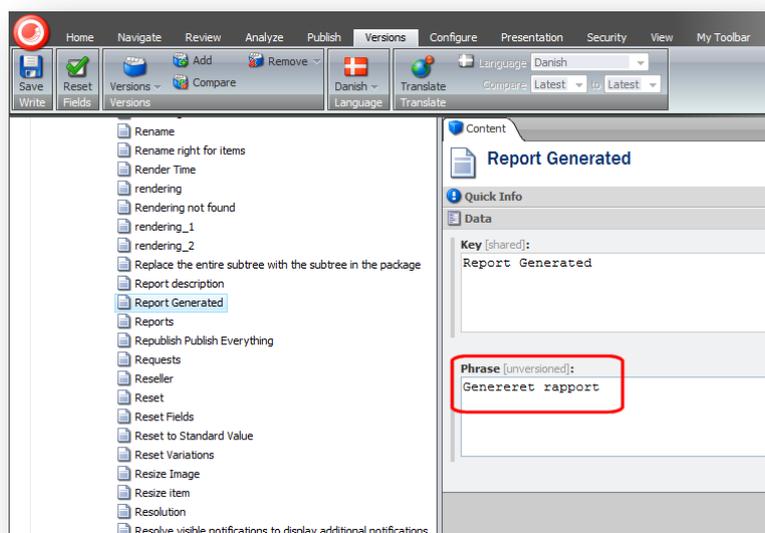
4. この新しいエントリを選択して、[Key] フィールドに「Report Generated」と入力します。これは、ローカライズしたテキスト変数のデフォルト値です。



5. 新しいバージョンのデンマーク語のディクショナリ エントリを追加します。



6. [Phrase] フィールドに、Report Generated を翻訳したテキストを入力します。



7. 変更を保存して、Sitecore デスクトップからログアウトします。
8. Sitecore で、デンマーク語をデフォルト言語に設定します。
9. Engagement Analytics でレポートを表示すると、ローカライズされたテキストがすべてデンマーク語で表示されます。



すべてのレポート テキストをローカライズするには、レポート レイアウトの各テキスト ボックスに対して同じ手順を実行します。

## 5.4 レポート SQL クエリの変更

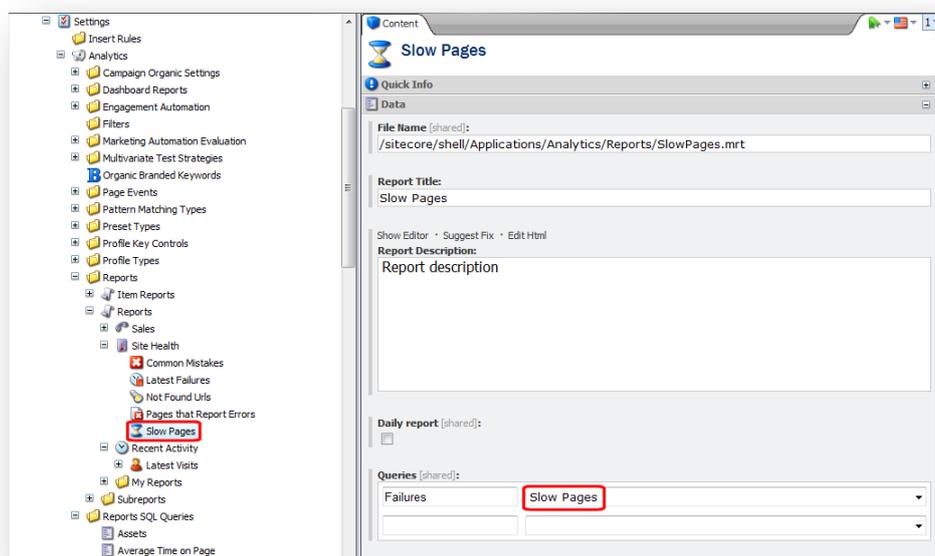
このシナリオでは、Slow Pages レポートで使用される SQL クエリを、より多くの数のアイテムを返すように変更します。これで、Sitecore コンテンツ アイテムに含まれる SQL クエリを編集するために必要な手順がわかります。

### メモ

独自の SQL クエリを作成したり、既存のクエリに複雑な変更を加えたりすると、パフォーマンスに影響する場合があります。クエリは常に、最高のパフォーマンスが得られるよう最適化してください。たとえば、SQL クエリを手動で記述し直したり、追加のビューやインデックスを作成すれば、最適化できます。

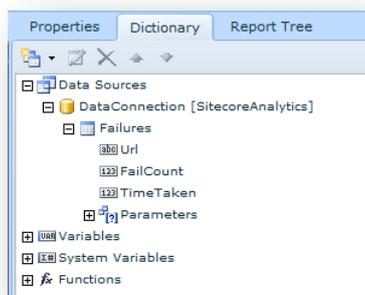
Sitecore SQL クエリを変更する方法:

1. コンテンツ エディターを開きます。
2. Sitecore コンテンツ ツリーで Slow Pages レポート定義アイテムに移動します。  
`/sitecore/system/Settings/Analytics/Reports/Reports/Site Health/Slow Pages`
3. このレポート定義アイテムの **Queries** フィールドには、このレポートが使用する SQL クエリが表示されます。



Slow Pages レポートの **Queries** フィールドには、「Failures」というデータ ソースと、「Slow Pages」という SQL クエリが含まれています。

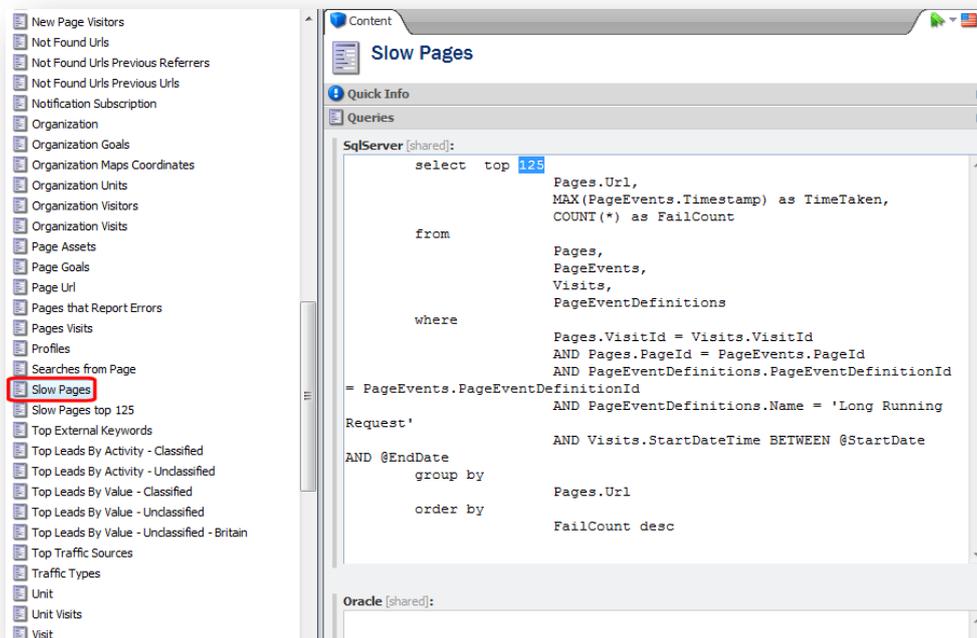
Stimulsoft Web Reports Designer でレポートを作成するときは、SQL クエリを使用してデータソースを作成します。Engagement Analytics では、すべての SQL クエリがデータソースから削除され、SQL レポート定義アイテムに変換されて、Sitecore コンテンツ ツリーに追加されます。新しいレポートを作成するときは、Stimulsoft データソース内に独自の SQL クエリを作成できますが、実装した後は、その SQL クエリを Sitecore コンテンツ ツリーに追加する必要があります。Stimulsoft データソースにクエリを残したままでも、レポートは引き続き実行されますが、クエリを削除することをお勧めします。



4. コンテンツ ツリーで、次の Slow Pages レポート クエリ定義アイテムに移動します。

/sitecore/system/Settings/Analytics/Reports SQL Queries/Slow Pages

5. Slow Pages SQL クエリで、「top 25」を「top 125」に変更します。最初にこの変更をテストするために、レポートを複製して、元のレポートが変更されないようにします。

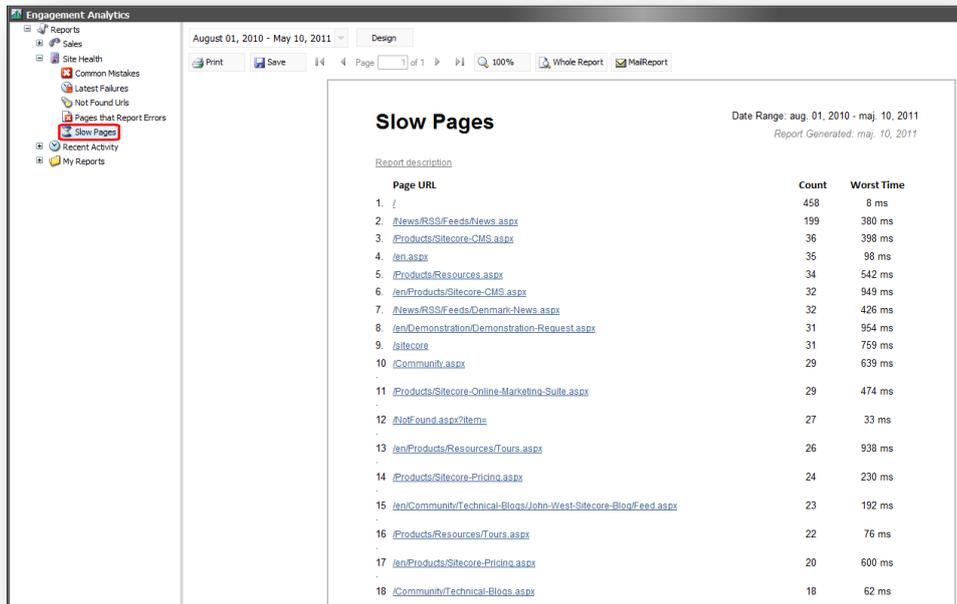


6. リボンで、[保存] をクリックします。

7. Engagement Analytics を開いて、Slow Pages レポートに移動します。

Reports/Site Health/Slow Pages

8. 下にスクロールして Slow Pages レポートを表示すると、このレポートが遅いページの上位 125 を返すようになっていることがわかります。



The screenshot shows the Sitecore Engagement Analytics interface. The left sidebar has a tree view with 'Slow Pages' highlighted. The main content area displays a table titled 'Slow Pages' for the date range 'aug. 01, 2010 - maj. 10, 2011'. The table lists 18 page URLs with their respective counts and worst times.

Page URL	Count	Worst Time
1. /	458	8 ms
2. /News/RSS/Feeds/News.aspx	199	380 ms
3. /Products/Sitecore-CMS.aspx	36	398 ms
4. /en.aspx	35	98 ms
5. /Products/Resources.aspx	34	542 ms
6. /en/Products/Sitecore-CMS.aspx	32	949 ms
7. /News/RSS/Feeds/Denmark-News.aspx	32	426 ms
8. /en/Demonstration/Demonstration-Request.aspx	31	954 ms
9. /sitecore	31	759 ms
10. /Community.aspx	29	639 ms
11. /Products/Sitecore-Online-Marketing-Suite.aspx	29	474 ms
12. /NotFound.aspx?Item=	27	33 ms
13. /en/Products/Resources/Tours.aspx	26	938 ms
14. /Products/Sitecore-Pricing.aspx	24	230 ms
15. /en/Community/Technical-Blogs/John-West-Sitecore-BlogFeed.aspx	23	192 ms
16. /Products/Resources/Tours.aspx	22	76 ms
17. /en/Products/Sitecore-Pricing.aspx	20	600 ms
18. /Community/Technical-Blogs.aspx	18	62 ms

## メモ

同じレポート .mrt ファイルに基づいて複数のレポートを作成できます。この場合は、SQL クエリを変更すると、このファイルに基づくすべてのレポートを更新できます。この方法は、問題が発生する原因にもなりますが、複数のレポートをすばやく更新する方法として使用することもできます。